PONY CANYON PERSONAL COMPUTER SOFTWARE

谷川浩司の将棋指南Ⅲ

ご注意

●本プログラムを使用する際、下記の点をご注意下さい。

○使用後は必ずもとのケースにもどして下さい。

○ディスク、テープの磁性面には手を触れないで下さい。

○磁気を近づけないで下さい。

○折曲げ、衝撃は避けて下さい。

ROMの場合

○必ず本体の電源をOFFにしてからカートリッジを抜き差しして下さい。

○絶対に分解しないで下さい。

フロッピーディスク、テープの場合

○フロッピーディスクドライブ、データレコーダは各メーカー指定の純正品を必ずご使用下さい。それ以外は保証しかねます。また、データレコーダのリモート端子を必ず接続して下さい。

●このソフトウェアを権利者の許諾なく賃貸業に使用することを禁じます。また、無断で複製することは法律で禁じられています。

お問合せ

●お問合せについては、同封のアンケートはがき、または官製はがきにてお願い致します。(電話によるお問合せはご遠慮下さい)

●また、万一正しく作動しない場合は、お手数ですがソフト不良の状況、お手持ちの機種(MSXのときは、メーカー名及び型番)を調査の上、お買い求めになられましたお店にご相談下さい。

〒102 東京都千代田区九段北4-3-31

㈱ポニーキャニオン PONYCA事業部

PONYCA は PONY CANYON に変わりました。

谷川浩司の将棋指南Ⅲ

なぜ日本古来からあるゲーム「将棋」が、女性にいまひとつ人気がないのだろうか。暗いイメージの競馬が、近頃のお祭り騒ぎで確実に女性ファンを増やしているというのに。

私は将棋にしろ囲碁にしろ、英語や仏語同様ひとつの言語だと思っている。将棋語が話せれば、世代を超えた会話が楽しめる。この『谷川浩司の将棋指南Ⅲ』で、将棋語を話す女性がひとりでも多くなれば、こんなうれしいことはない。

――㈱ポニーキャニオン――

はじめる前に

■必要機器
- PC-9801シリーズ(メモリ384KB以上必要)
  ※PC-9801/E/F/U2では動作しません。
- カラーディスプレイ

■起動方法
①本体の電源をONにします。
②本ディスクをドライブ1にセットします。
③しばらくするとタイトル画面が表示されます。
※タイトル画面がでない時は、リセットボタンを押して下さい。
④スペースバーを押すとメニューが表示されますので、↑と↓キーで選択し、スペースバーで決定します。

■マウス対応
①バスマウスにのみ対応しています。シリアルマウスでは、動作しません。
②マウスとキーボードを同時並行処理しているので、切り替えなしに自由に両方を使い分けられます。
③マウスの左ボタンが、キーボードのスペースキーに対応します。そして右ボタンが、BSキーに対応します。

■サウンドボード対応
①PC-9801VM以降の機種では、ブザー音一声による音楽と音声が、出力されます。
②PC-9801VM以降の機種でサウンドボードを装着していると、FM音源による音楽と音声が、出力されます。

ゲーム内容

■タイトルメニューの説明

①本将棋

いろいろな拡張機能が使用できます。

●手戻し　●再現　●投了　●セーブとロード

(8局まで)　●レベルの選択(1〜3)

②その他将棋の駒を使った遊び

1、詰将棋

●谷川浩司名人のオリジナル問題と江戸時代の名作合わせて60題収納されています。

●正解を教えるヒント機能が付いています。

2、ミステリー将棋

●相手側の駒が消えて見えない状態で対局する本将棋です。

●レベルが上がるごとに消える駒が増えていきます。

3、スロット将棋

●スロットで出た目の駒だけ動かすことができる本将棋です。7が3つそろうとスロットを7回連続で回すことができます。

4、はさみ将棋

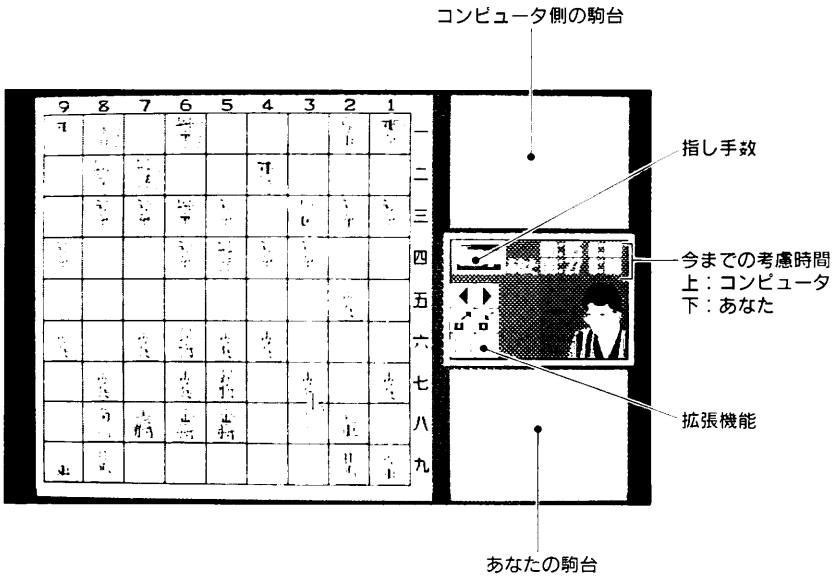
対戦可能な最長手数は、以下の通りです。

●本将棋：300手　●詰将棋：100手

●ミステリー将棋：300手　●スロット将棋：300手

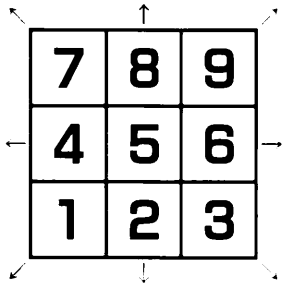
●はさみ将棋：200手

画面の説明



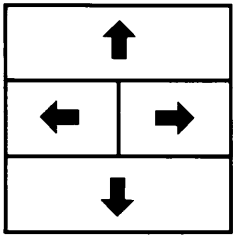
キー操作の説明

■指(または矢印)の移動



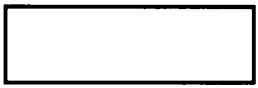
(テンキー)

または



(カーソル移動キー)

■駒を持つ(あるいは持っている駒を置く)



(スペースバー)

■持った駒をキャンセルする

BS

(バックスペースキー)

■駒が成らない場合

4 キー(テンキー)あるいは ← キーを押し、スペースバーで決定します。

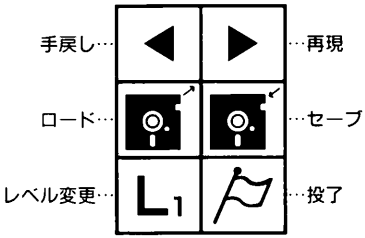
■その他

BS キー……駒を持っていない時に押すと指が駒台に移動します。

STOP キー……リセットボタンと同じ働きをします。

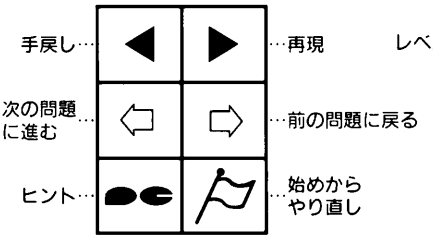
拡張機能の説明

■本将棋、ミステリー将棋、はさみ将棋の場合。



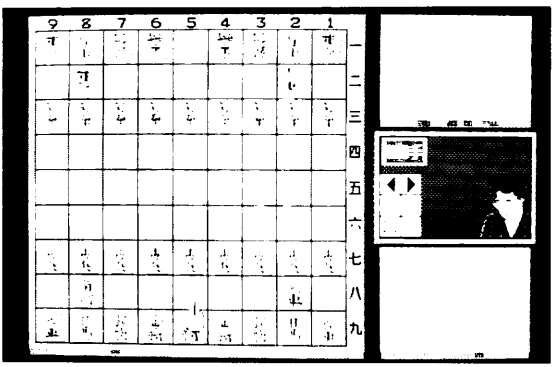
※ミステリー将棋とはさみ将棋にはセーブ／ロード機能はありません。

■詰将棋の場合



ミステリー将棋

相手側の駒が消えて見えない状態で対局する本将棋。ただし、勝負がついた場合、消えている駒が表示され、棋譜が最初から自動的に再現されますが、なにかのキーが押されると再現は停止します。レベルによって消える駒が次のようになります。



消える駒

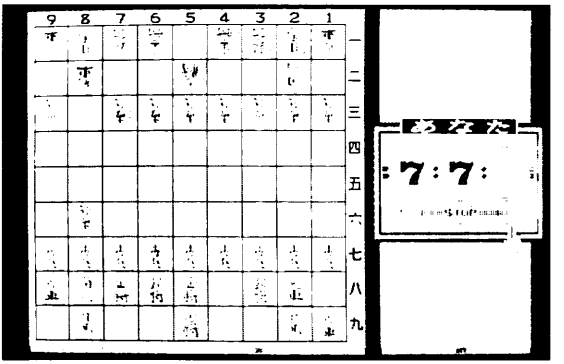
レベル1…玉
レベル2…玉と香
レベル3…玉と香と桂
レベル4…玉と香と桂と銀
レベル5…玉と香と桂と銀と金
レベル6…玉と香と桂と銀と金と歩
レベル7…玉と香と桂と銀と金と歩と角
レベル8…すべての駒

スロット将棋

スロット将棋とは、スロットで出た目の駒だけ動かすことができる将棋です。

7が3つそろうとスロットを7回まわすことができます。つまり、7回連続で指すことができます。ただし、途中で「王手」をかけると、たとえあと5回残ってたとしてもその時点で終了します。

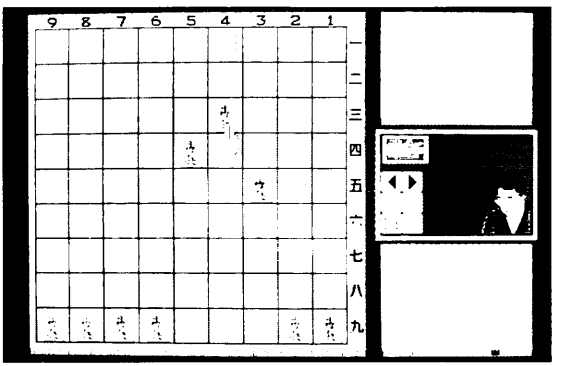
また、指手がなかった時もボーナスは終了します。



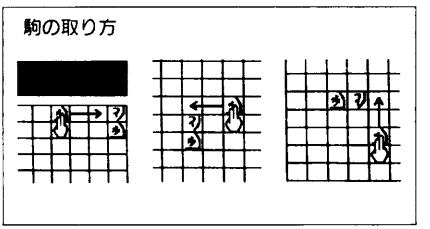
ESC キーを押せば投了となります。

はさみ将棋

駒をタテとヨコに動かし、相手の駒をはさめば、その駒を取り除くことができます。相手の駒を6個取ればあなたの勝ちとなり、次の対戦では、あなたの駒は8個からスタートすることになります。



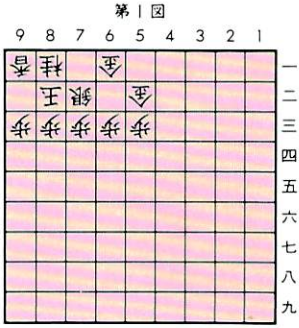
駒の取り方



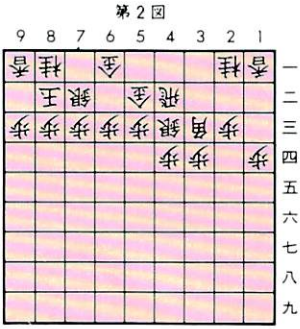
※手数が200手になると、取った駒の多い方が勝ちとなります。

谷川疾風流 寄せの奥義

第1図



第2図



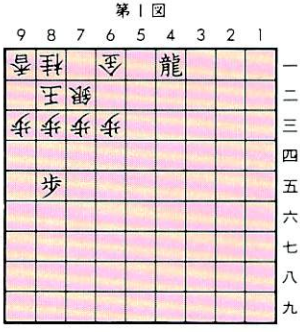
◎美濃囲いの崩し方

居飛車党を悩ませる囲いに美濃囲いというのがあります。1図の構えがそうで、正確には△7二銀△6一金の二枚の場合を片美濃囲い、それに△5二金をつけたのを本美濃囲いと呼びます。

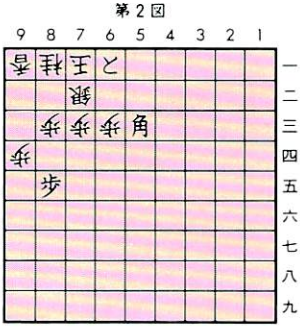
この美濃囲いに囲うために後手は振り飛車戦法を採用するのですが、例えば四間飛車の場合は2図のようになります。

さて堅い美濃囲いをどうやって崩すのか、谷川疾風流の寄せ方を見てもらいましょう。

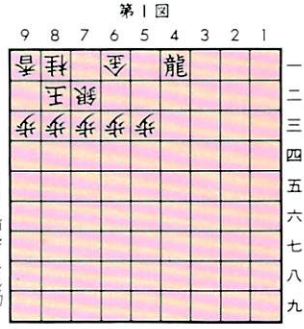
第1図



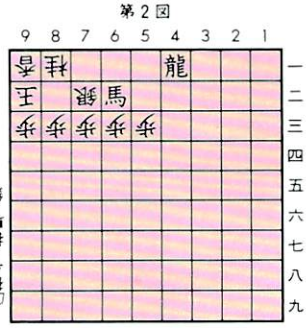
第2図



第1図



第2図



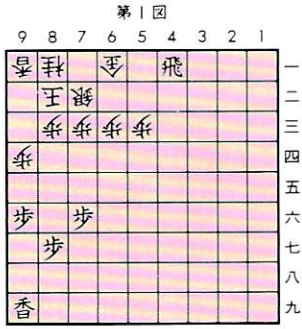
まずは片美濃囲いを攻略します。1図のように角銀が持駒にある場合は、この手筋を知っていれば簡単に寄せる事ができます。やってみましょう。

▲6二銀 △同金
▲7一角 △9二玉
▲6二角成（2図）

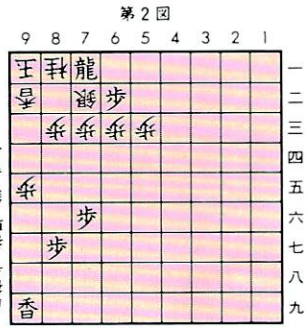
美濃囲い攻略のポイントは、守備体形の要の△6一金を攻める事にあります。

▲6二銀の捨て駒が急所の一手。△同金とさせて金の効きを7一から消しておいて角を打ち込んで攻略しましょう。

第1図



第2図



続いて持駒が角と歩の場合はどうやるのが急所でしょうか。

▲6二歩　△7一金
▲5三角　△9四歩
▲7一龍　△同玉
▲6一歩成（2図）

▲6二歩と金頭に叩くのが肝要で△同金と取れば▲7一角がある。

そこで△7一金と逃げますが、▲5三角が狙いを秘めた一着。

そして逃げ道を開ける△9四歩に▲7一龍が強手。△同玉と取りますが、▲6一歩成が両王手で、以下は簡単な即詰みとなります。調べてみて下さい。

第1図

▲先手 持駒 桂 歩三
△後手 持駒 なし

持駒が桂歩3枚の1図の場合はどう攻めるのでしょうか。一見早い攻めがなさそうに見えますが……。

▲9五歩　△同歩
▲9二歩　△同香
▲9三歩　△同香
▲9四歩　△同香
▲8六桂（2図）

第2図

▲先手 持駒 なし
△後手 持駒 歩四

歩をポンポンと捨てて桂を打つ。これは基本手筋の一つで、定跡の手順です。ぜひ覚えておいて下さい。さて2図で△9三玉と守れば駒損はありませんが、▲9四桂△同玉となった形は大変寄せ易くなってます。

次に端攻めを絡めた攻め方を紹介しましょう。持駒が銀歩2枚で1図のような場合は、こう攻めましょう。

▲9五歩　△同歩
▲6二歩　△7一金
▲9二歩　△同香
▲9一銀　△同玉
▲7一飛成（2図）

美濃囲いは端攻めを絡めると以外にモロいもので、△7一金型にさせておいてから▲9二歩、▲9一銀の送りの手筋であっさり攻略できます。

それではこのような端攻めの好例を2、3紹介しましょう。

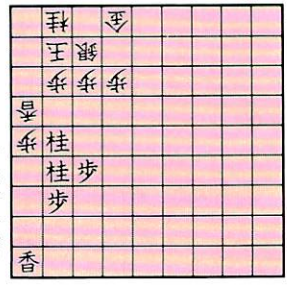
第1図

▲先手 持駒 桂 歩
△後手 持駒 なし

先ほどの端攻めの応用手順を見てもらいましょう。1図には攻め方▲7七桂があります。そこでこの桂も端攻めに参加させましょう。

▲9五歩　△同歩
▲9三歩　△同香
▲8五桂　△9四香
▲8六桂（2図）

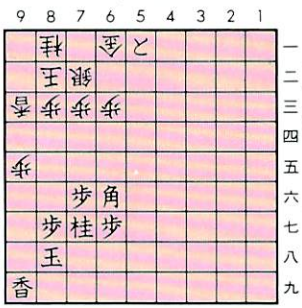
第2図



▲先手 持駒 なし
△後手 持駒 歩

歩が1歩の持駒の場合でもこのように盤上の駒を利用すればあっさり端が破れます。歩が多い場合は9二から先手先手と連打して攻める方がよいのですが9三歩とじっと垂らしておく手も厳しいものです。

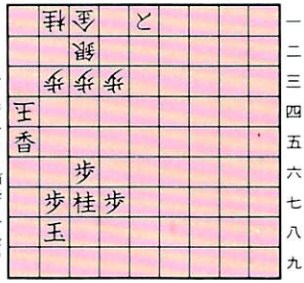
第1図



さて端攻め最後はあっという間に即詰みに討ち取る必殺の寄せをご覧下さい。

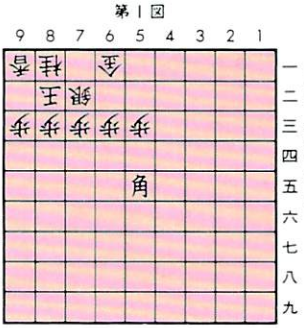
1図は▲9三歩△同香と取った局面です。ここからは▲9三同角成 △同玉 ▲7一角 △同金 ▲9四香 △同玉 ▲9五香（2図）

第2図



ズバッと角成が必殺の一手。△同桂は▲9四桂△7一玉▲5三角以下なので玉で取りますが、逃げ道封鎖の▲7一角が好手。△同金に▲9四香から▲9五香と走ったのが2図。以下△同玉▲8五金△9六玉▲8六金まで。

第1図

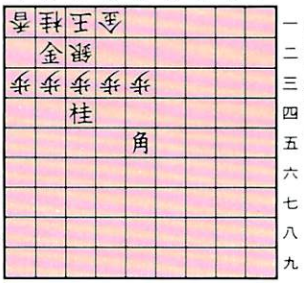


それでは続いて玉のコビンを狙う指し方を紹介しましょう。

1図は攻め方が▲5五角1枚、持駒が金桂ですが、なんとこれだけで美濃囲いに入った王様を詰ます事ができます。

▲7四桂 △7一玉

第2図

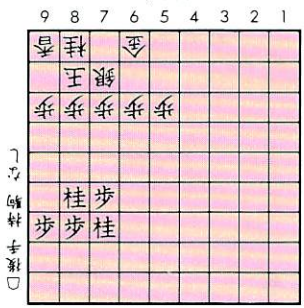


▲8二金（2図）

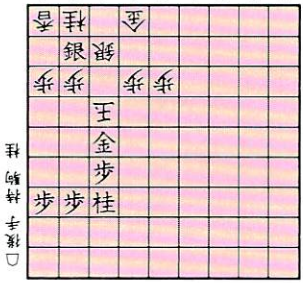
たった3手でガッチリ囲った美濃囲いもご覧の通り。

この攻め方こそ、桂馬の特性を生かしたウルトラCで、最後▲8二金に△6二玉と逃げたいところですが、桂馬の効き筋でダメ。

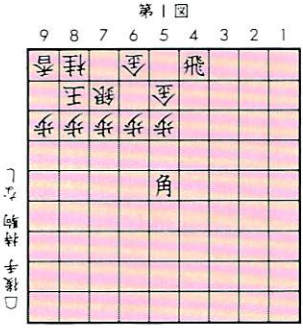
第1図



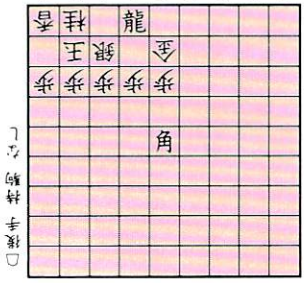
第2図



第1図



第2図



前例と同じように桂馬でしとめる例を紹介しましょう。

▲7四桂打　△同歩
▲同桂　△7三玉
▲8二銀　△7四玉
▲7五金（2図）

このような桂の使い方を「つなぎ桂」の手筋と呼びます。

先にも書きましたが合駒の効かない桂馬の特性を生かした攻めは強烈で、どんな堅い囲いをも崩してしまいます。美濃囲いもこれにかかってはあっという間の即詰み。ですから事前に▲8六桂と控えて打てる感覚が大事。

さて応用問題。今度は持駒の金の代わりに飛車が打ってありますね。こんな場合はどう指すのでしょうか。えっ、最初はやっぱり桂打ちだって？まあまあよく考えてください。

えっ、▲7四桂しか考えられないですか。

しかしそれは△9二玉と逃げてくれれば▲6一飛成でよいのですが、△7一玉と逃げられると失敗です。

正解は先に▲6一飛成（2図）。△同銀に▲7四桂△7二玉▲8二金の詰みを見てこれで勝ちになります。

第1図

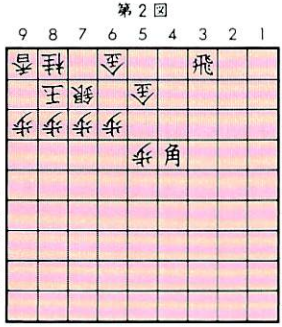
続いて本美濃囲いの攻略法に移ります。

1図の場合はどうでしょうか。持駒が銀だけでまだまだ攻略するのには時間がかかりそうですが……。

▲5四歩　△同歩
▲4四角（2図）

5筋の歩を突き捨て

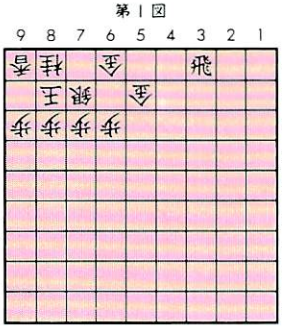
第2図



角を4四へ飛び出す。実戦でも必ず出てくる手順ですので、ぜひ覚えて下さい。

2図は次に▲7一銀△9二玉▲6一飛成の寄せがあり、△5一金引きと受けても▲同飛成、△6二金寄も▲同角成でヤブヘビです。

第1図



今度の場合は△5一歩と受ける用意があります。しかしこちらも角銀銀。強烈に寄せましょう。

▲5三銀　△同金
▲6二銀　△5一歩
▲同飛成（2図）

本当なら単に▲4四角と打って▲7一銀を狙いたいのですが、後手に△5一歩と打って粘られると、簡単につぶれません。

▲5三銀のタダ捨てが好手。△同金に手筋の▲6二銀と打った時に△5一歩と粘りますが、▲同飛成が強手。取れば▲7一角です。

第2図

第1図

第2図

◎高美濃囲いの崩し方

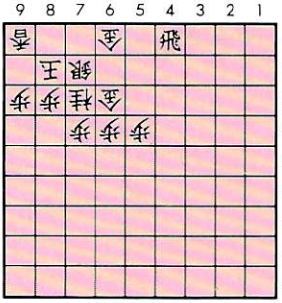
美濃囲いから□6四歩□6三金の2手をかけた構えを高美濃囲いと呼びます。1図がそれですが、次に□7四歩と指されると桂香だけでは手がなくなってしまいます。今がチャンス。

▲7五桂　□6二金引

▲6三香（2図）

▲7五桂が急所の攻めで、もし□7四金なら▲6三桂成の軽手があります。そこで□6二金と引きますが、▲6三香と浴びせていって見事に死角をついた攻めが成功しました。

第1図



第2図

片美濃囲い攻略の応用です。1図はきれいな高美濃囲いですが、ここまで読まれた皆さんならもうおわかりですね。

▲5二銀　□6二金引

▲6一銀成　□同金

▲6二金（2図）

▲5二銀がおなじみの手筋。これをもし□同金だと▲7一銀以下簡単に詰んでしまいます。そこで□6二金引と頑張りますが、解答のように攻めて▲6二金まで、見事に基本手筋を応用した攻めが決まりました。美濃の急所はやはり□6一金。

第1図

第2図

第3図

第4図

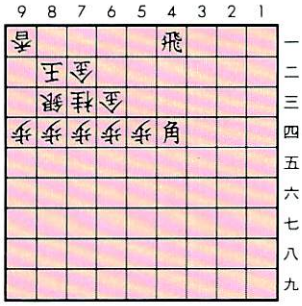
今度は少し難しい攻略法をお見せしましょう。1図の高美濃囲いはまだまだ容易に崩れないように見えますが端攻めを絡めて一気に攻める方法があります。

▲9五歩　△同歩
▲5二と（2図）

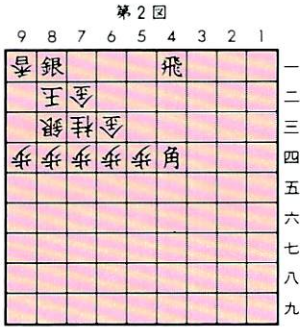
端歩を突いて△6一金を攻める。実戦でもよく出てくる手順で、ちょっとしたことだがこれを完璧に覚えれば上達間違いなしです。

さて▲5二とに対して△同金は、以下▲7一銀△9三玉▲6二銀成で寄り筋。そこで△7一金と寄りますが、▲9二歩が好手（3図）。

第1図



第2図



◎銀冠りの崩し方

高美濃からさらに手をかけて組み上げられたのが、この銀冠りです。仲々に上部が手厚く端攻めにも強いところを見せている反面、下段が手薄なのでそこが弱点となります。

1図は飛車角のニラミが7一に効いていますが、▲7一銀などと重たく攻めてはダメです。ここは筋よく▲8一銀と打って下さい。（2図）

もし△6二金寄と逃げられても、▲5一飛成で優勢。銀冠りの急所は7二の金です。

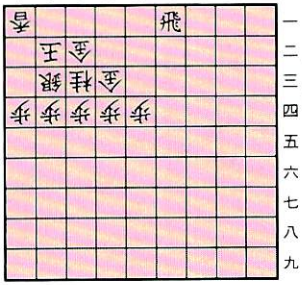
△同玉なら▲7一龍なので△同香と取りますが、ここに歩を打ちたいばかりに端を突き捨てたと言っても過言ではないのです。

というのは、9一の地点をあけることによって、ある必殺の一手があるからです。

▲9一銀（4図）

そうです、この手が送りの手筋とも呼ばれる決め手で、△同玉なら▲7一龍△8一銀▲8二金で、▲9一銀に△8一玉なら、▲7一龍△同玉▲8二金で即詰みとなります。

第1図



本問は手がかりが飛車1枚ですが、持駒が角銀香と揃っていますので、すばやく寄せる手をみつけて下さい。

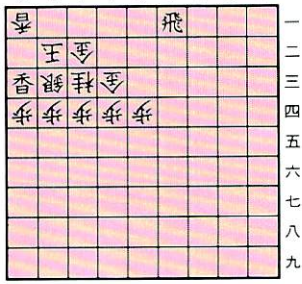
▲9三香（2図）

何の手がかりもない端へ香車をポンと捨てる。初めてこの手を見た人はびっくりするでしょう。

△同香は▲9一銀△9二玉▲8一角△9一玉▲7二角成以下詰みなので、△9三同玉と応じますが、▲9一飛成△9二香となったところで（3図）。

さてこの後どうやって寄せますか。

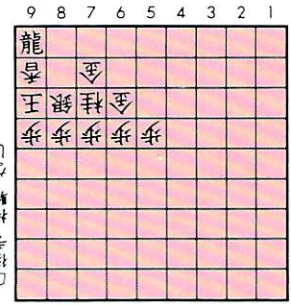
第2図



第1図

第2図

第3図



3図で▲8一銀と掛けるのも有力な手ですが、△6二金引と頑張られそうです。

ここはちょっと詰将棋感覚のような攻めでいってみましょう。

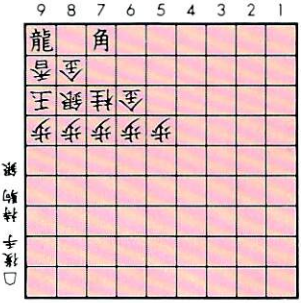
▲8二銀　△同金

▲7一角（4図）

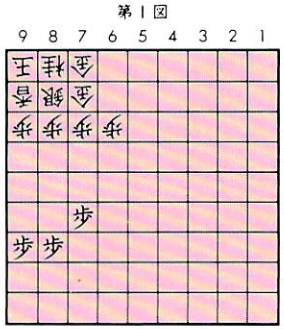
銀を捨てて角を打つのが3手一組の必殺手順で、これをすぐに発見された方は相当な実力者です。

4図となっては△8一銀と受けても、▲同龍でヤブヘビ。かといって適当な受けもなくあっという間の銀冠り攻略となりました。

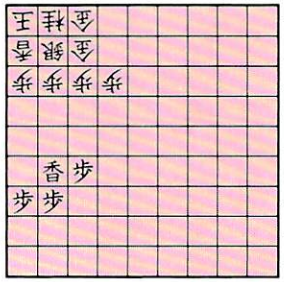
第4図



第1図



第2図

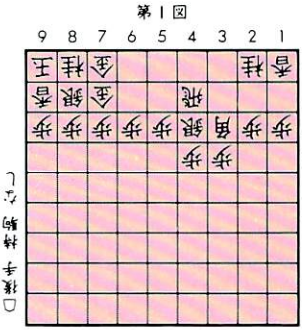


◎穴熊囲いの崩し方

美濃囲い攻略に続いては、囲いの中で一番堅いと言われている穴熊囲いの攻略法を紹介しましょう。

穴熊囲いとは、玉を一番端の香車の下に持ってきて、金銀で周囲を覆ってしまう奇妙な駒組です。しかしこれが何ども堅い。そう、先ほどの美濃囲いのようにすぐ王手がかかるのではなく、駒を何枚渡しても詰まないのがこの囲いの特徴です。自然の地形を生かした要塞とでもいえるでしょう。

第1図

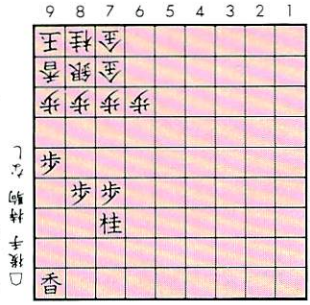


穴熊攻略の急所は、玉頭攻めを絡めていくことです。例えば1図は持駒が桂歩3枚ですが、これだけで飛車と協力してこの堅い構えを崩す事ができます。

▲8四歩　△同歩
▲8五歩　△同歩
▲8四歩（2図）

▲8四歩と叩き、▲8五歩と打つ。このような歩の使い方を継き歩と言います。そして△同歩に▲8四歩と打った歩をタラシの歩。たったこれだけで次の▲8三桂△同銀▲同歩成△同金▲7一飛成が受かりません。

第1図



▲先手　持駒　歩二
△後手　持駒　なし

それでは同じ玉頭でも端攻めで攻略しましょう。これが一番実戦で出てきやすい形だと思います。さて、どうやりますか。

▲9四歩　△同歩
▲9三歩　△同銀
▲8五桂　△8二銀
▲9三歩　△同香

第2図

▲先手　持駒　なし
△後手　持駒　桂歩三

▲同桂成　△同銀
▲9八香打（2図）

ちょっと手順は長いですが、攻めている所が一ヵ所なのでそんなに難しくないでしょう。端歩を突いて叩いて桂を跳ぶ。これが穴熊攻略のパターンだと覚えておいて下さい。

先ほどの攻めの復習です。桂香2枚を持駒に持っていた場合はまずどう指すのが正着でしょうか。

そう、やはり狙う所は同じ玉頭なのです。もうおわかりですね。

▲8六香（2図）

これは簡単だったでしょう。

これで次に▲8五香打から▲7五桂と8三の地点に集中攻撃をかけて必勝です。

穴熊は王手がかからない反面、玉頭から手が付くと受けが効かないという欠点があります。長所は短所。

第1図

▲先手　持駒　歩三
△後手　持駒　なし

この問題はどうでしょうか。龍はあるものの、持駒は歩ばかり。果してこんなもので攻める事ができるでしょうか。

▲6二歩　△同金上
▲5四歩　△同歩
▲5三歩（2図）
▲6二歩が急所のタラシ。

第2図

▲先手　持駒　なし
△後手　持駒　歩二

穴熊にはと金を作るのがよい攻め方です。歩と金銀の交換はたまらないのでどちらかの金で取るのですが△同金寄は▲8四歩△同歩▲8三歩があります。そこで金上で取りますが、当りを強くした2図の効果は強烈。

第1図

今度は歩の代わりに桂馬が3枚。本来は▲7五桂ぐらいの攻めが間に合えばいいのですが（次に▲9五桂を狙って）寄せを急ぐ場合そうもいってられません。そんな時の攻め方です。

▲6四桂 △同歩
▲6三桂 △同金

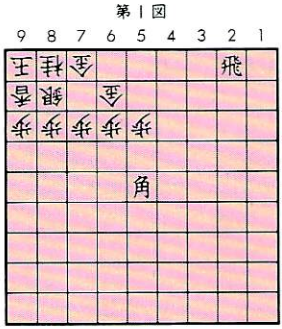
第2図

▲7五桂（2図）

桂馬を2枚捨ててかなり乱暴な攻め方ですが、これで立派に手になっています。

2図で△6二金引なら▲8三桂不成△同銀▲7一龍△7二金▲8四歩と迫ります。

第1図

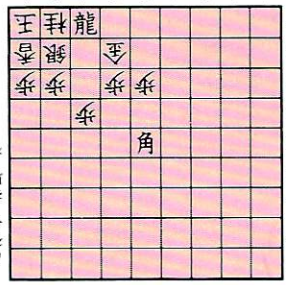


次に金が6二に離れている穴熊ですが、実戦ではたまにみかけます。1図の局面では美濃攻略で使った手筋が有効です。

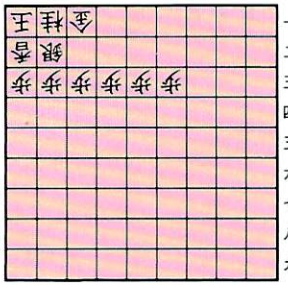
▲7四桂 △同歩
▲7一飛成（2図）

美濃囲いの時は8二に王様がいるので直接王手がかかって成功しましたが、穴熊でもこのような場合は十分成立します。つまり7四の地点を桂馬でこじ開けて、▲7一飛成と金を取る手があるからです。これを△同銀と取りたいのですが、▲5五角のニラミでダメ。

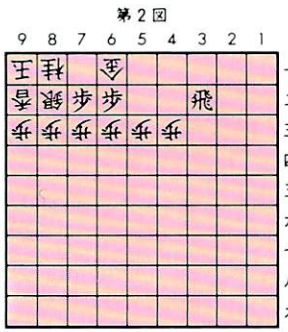
第2図



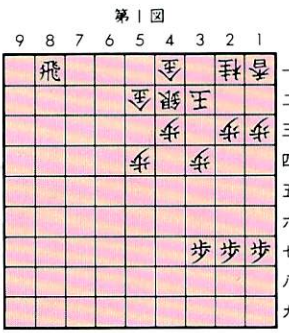
第1図



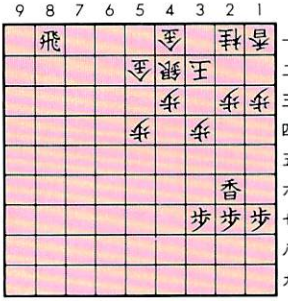
第2図



第1図



第2図



穴熊の最後は金銀2枚の薄い構え。これもたまに見かけます。

さて特駒は飛車と歩3枚、どう攻めましょうか。

▲7二歩　□同金
▲3二飛　□7一金
▲7二歩　□6一金
▲6二歩（2図）

▲7二歩と金銀の連携を乱すのが好手。□同金に飛車を打ち、金引きに再度▲7二歩から▲6二歩と攻めたのが2図。以下は□7二金なら▲6一歩成、□5一金なら▲3一飛成□6二金▲7一歩成で穴熊崩壊です。

第1図

▲先手　持駒　角　桂

□後手　持駒　なし

第2図

▲先手　持駒　金

□後手　持駒　角　桂

◎舟囲いの崩し方

対振り飛車の構えに舟囲いという囲い方があります。手数がかからず簡略にできるわりに、結構堅いのでプロの将棋にもよく出てきます（1図）。

その攻略法を2題紹介しましょう。

囲い攻略の秘訣は、まずその駒組の一番弱い所はどこかを察知することにあります。

1図では、もうおわかりですね。そう、玉頭が弱いので▲2六香と打って（2図）次に▲2三香成。□5一金引には▲1五桂です。

第1図

▲先手　持駒　なし

□後手　持駒　なし

◎矢倉囲いの崩し方

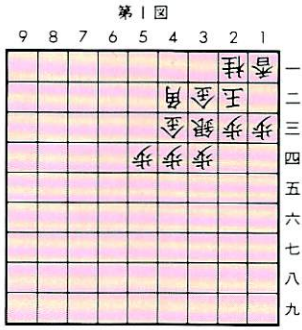
それでは将棋の王道とも言える、矢倉囲い攻略に入りましょう。

矢倉囲いとは、ほとんどの場合振り飛車ではなく、相居飛車の戦いでよく使われる囲い方です。

1図はその矢倉戦の中盤ですが、お互いに矢倉の堅城に王様がどっしりと腰を据えています。

さてこれから攻防の火花を散らすところですが、矢倉囲いの崩し方を知らなければとうてい勝つ事はできません。始めましょう。

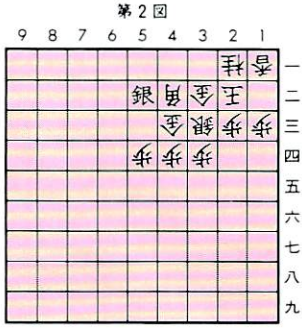
第1図



1図は金銀3枚に角まで付いた、ガッチリした矢倉です。

持駒は銀1枚。果してこんな銀だけで矢倉を攻める事ができるのでしょうか。いや、やはり攻略どまではいきません。しかし、金銀のスクラムを崩す事は可能なのです。

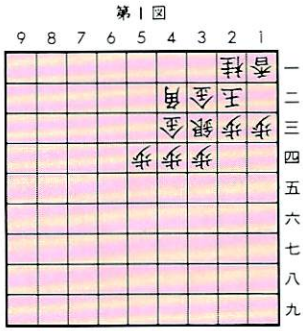
第2図



▲5二銀（2図）

そうです、この一手で必ず1枚は守りの駒を取る事ができます。つまり、ほうっておけば▲4三銀成と金を取り、また△5三金には▲4一銀成と攻めて角が捕獲できるのです。

第1図



続いてこの問題ではどうでしょうか。囲いは先程と一緒ですが持駒が銀2枚に歩と増えています。

この場合は前問よりもっと厳しく迫る事ができます。

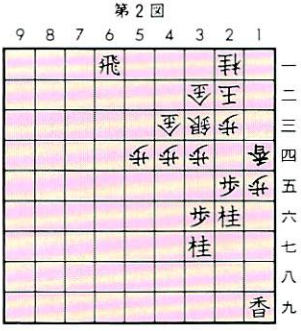
▲4一銀 △3一金引
▲5二銀打 △5三金
▲4三歩（2図）

第2図

金は斜め後ろに効かないのが欠点。それを鋭く突ける駒は銀なのです。つまり▲4一銀から▲5二銀打と、金の死角を突いていけば意外に簡単に崩す事ができるのです。ぜひ覚えて下さい。

第1図

第2図



第1図

第2図

さてこの問題は前問のようにうまくいくでしょうか。相手の囲いは一緒ですが今度はあいにく銀がありません。

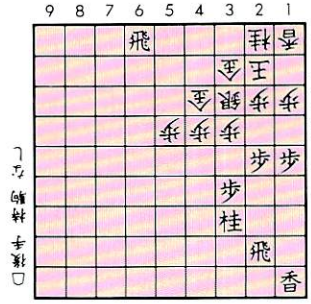
しかし桂と歩が4枚もあります。ヒントは端攻めですが……。

▲1四歩　△同歩

▲1二歩　△同香
▲1三歩　△同香
▲1五歩　△同歩
▲1四歩　△同香
▲2六桂（2図）

▲1二歩のところ、歩が3歩しかなければ▲1三歩と垂らしておいても、ほとんど取る一手です。

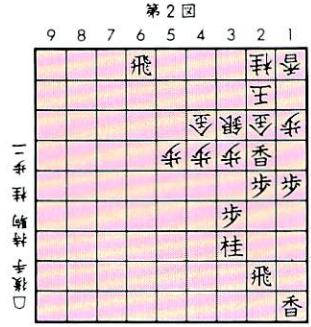
第1図



1図は終盤の寄せ合いだと思って下さい。ですから先程の▲1六桂より早い攻めを要求されます。

▲2四桂　△同歩
▲同歩　△同銀
▲2三歩　△同金
▲2五歩　△3三銀
▲2四香（2図）

第2図



ずいぶん手を進めましたが、絶対覚えて損のない手筋なので、しっかり読んで下さい。

▲2四桂と直接打つのが厳しい手で、取って歩を進めて詰めろと迫れば△同銀よりありませんが、解答のように進めて勝ちです。

1図は実戦によく出てくる局面だと思います。持駒が桂1枚。ちょっと見には攻める手がなさそうですが、案外厳しい筋があるのです。

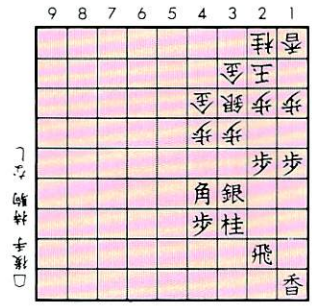
▲1六桂（2図）

じっと桂を控えて打つ手があります。

これで次に▲2四歩△同歩▲同桂と攻めていくのです。

矢倉囲いの急所は、3二の金にあります。この金を攻める事によって、囲いは一挙に弱体化します。では次に本問よりもっと厳しい寄せをお見せします。

第1図



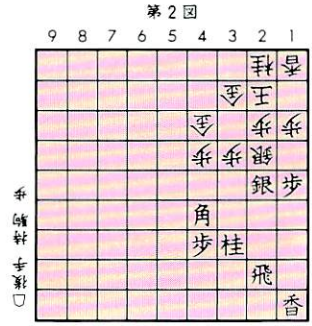
1図は中盤戦で出てくる攻撃の構え。しかしここからの攻め方を知らなければ、猫に小判と言えます。

▲2四歩　△同銀
▲2五銀（2図）

やはり玉頭から攻める▲2四歩が正解。これにもし△同歩なら、▲2五歩と継ぎ歩して以下△同歩▲同桂で攻めが成功します。

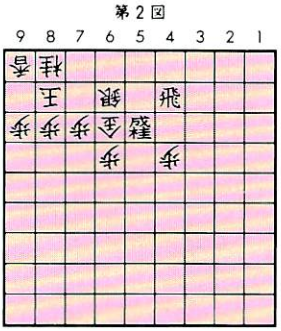
そこで△2四同銀と歩を取りますが、▲2五銀とぶつけていくのが好手。2図で△3五銀なら、▲同角△同歩▲3四銀打と玉頭に襲いかかります。そこで▲2五銀には△同銀と取ります。

第2図

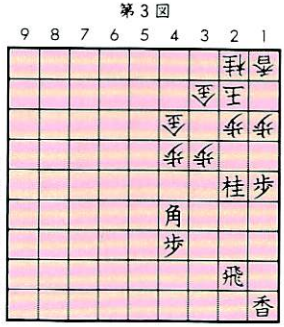


第1図

第2図



第3図



が、▲同桂と取って3図。

これで次に▲3三歩△同桂▲1三桂成△同香▲1四歩△同香▲同香（4図）を狙うのです。こうなっては後手は壊滅状態で、矢倉の堅固な守りも端を突破されて受けに役立っていません。

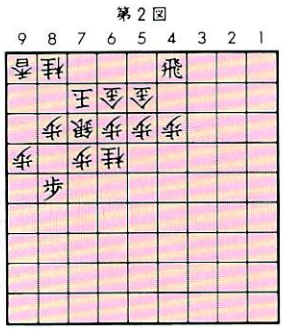
皆さんも矢倉を指される場合は、この構えか、それとも次に紹介する構えにされるのをお勧めします。

それではそのもう一つの攻撃形をご覧いただきましょう。

第4図

第1図

第2図



第1図

この構えもよくある攻撃形で、前問と同じようにプロの実戦によく出てきます。

それでな矢倉囲いを料理してみましょう。

▲1四歩 △同歩
▲1三歩 △同香
▲2五桂 △2四銀
▲1三桂成 △同銀

第2図

▲1六香打（2図）

長手数進めましたが狙いは単純明快。端に集中放火を浴びせるのです。2図となっては端攻めは大成功、矢倉側に端を受ける術はありません。ただ注意すべきは2五へ桂馬が跳べるように！です。

1図の構えもたまに見かけます。これを谷川疾風流で寄せるとすれば、次の手順でしょう。

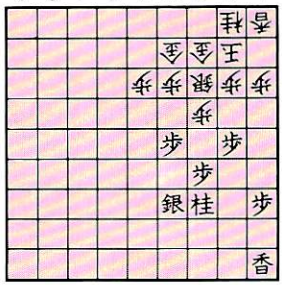
▲6四桂　△同歩
▲6三歩　△同金
▲5三桂成（2図）

▲6四桂が意表の好手。タダ捨てのようですが、続く▲6三歩が焦点の捨て駒で決め手となります。

これを△同銀の場合も▲5三桂成と進めて優勢、2図と似たりよったりです。

寄せは正確かつスピードが要求されますが上達には必要不可欠。

第1図



◎変形囲いの崩し方

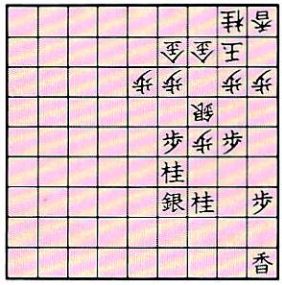
実戦では教科書通りの駒組ばかりが出てくるとは限りません。そこでやや変形なれど、固い構えを2、3紹介して、崩し方を伝授しましょう。

1図は矢倉の変形で持駒は桂と歩。しかしこれだけでも結構手になるのです。

▲3五歩　△同歩
▲3四歩　△同銀
▲4六桂（2図）

どうです、立派に攻めになっているでしょう。金銀のスクラムを崩す感覚を養って下さい。

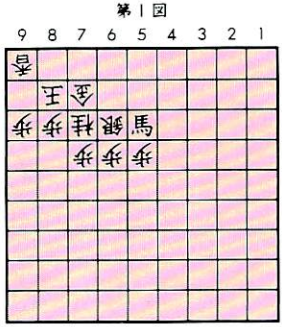
第2図



1図はちょっとヒネッた創作をしました。相振り飛車でよく出てくる、二枚金という構えですが、これを詰めろ、詰めろで迫らなくてはならないと仮定して下さい。

第一感で閃かれたでしょうか。正解の第一手は▲7四桂。ほうっておくと▲8二桂成△同玉▲7一角以下詰みですので△同歩と取りますが、狙いの一手が▲7三歩。まさに焦点の名歩で、何で取っても苦しいのですが、本問は△同銀と取ります（2図）さて？

第1図



1図は中飛車でよく出てくる構えで、柔軟な形をしています。

飛車があれば案外簡単に攻略できるのですが、1図のような場合はどうでしょうか。

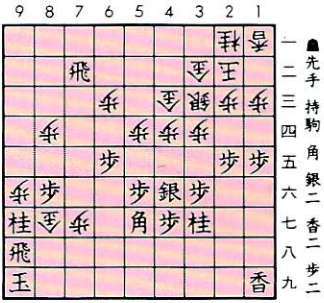
1枚はがしておく、とよく言われる手筋です。

第2図

▲6一銀（2図）

そうです、簡単ですね。銀を掛けるこの一手こそどんな構えに対しても必要な手筋で、△7一金には▲6三馬があり、放っておくと▲7二銀成と金を取って大成功です。ぜひ実践して下さい。

第1図

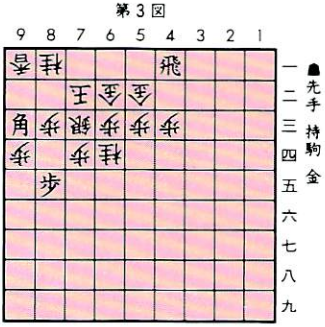


◎疾風流寄せの奥義

囲いの崩し方講座はいかがでしたか？これまでの手筋を覚えていただければ、上達も間違いないと思います。えっ、ちょっと物足りなかったですか？ふっふっふっ、そんな方のためにもちゃんと講座を用意してあるんですよ。その名も疾風流寄せの奥義。私の実戦の終盤をもとに研究しましょう。かなり難しいですが、頑張って付いて来て下さい。

1図は二年前に戦った将棋で、矢倉の終盤戦です。

第3図

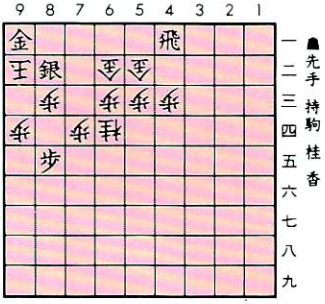


2図でまず平凡に寄せるとすれば▲7一金ですが、以下△8二玉▲8一金△9三玉▲7一角△8二桂と進んで一手あきます。

正解は▲9三角と打つ手で（3図）放っておくと、当然▲7一飛成までで詰みですので何か受けなければなりませんが、実はこれで適当な受けがなく必至となります。

なお3図で△8二銀なら、▲7一金△7三玉▲8二角成△同玉▲8一金△9三玉▲8二銀△9二玉▲9一金以下即詰みです（4図）。

第4図



A図

B図

C図

D図

私の王は後手の強襲によって丸ハダカにされてます。それに比べて相手は金銀3枚の鉄べきの矢倉。どう見ても私の負けのようですが、よく考えるとこちらの形は危ないようでもまだ詰みません。

そこで詰めろの連続で迫ればよいのですが第一感にどんな手が浮かぶでしょうか。

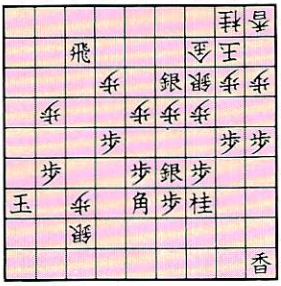
▲4一銀ですか？（A図）確かに有力な一手です。しかし△4二金と引く手が後手にはあります。（B図）

これに対し▲3二銀成△同金▲4三銀と迫る一手ですが（C図）実はここで後手はうまい寄せを用意しているのです。

△8九金が後手の狙っている必殺の一手。（D図）以下▲同玉と金を取りますが、△7八銀と打って▲9九玉に△9八金▲同玉△9七歩成▲同玉（E図）と進みます。

これで一見こちらの王は詰みがなさそうに見えますが、まるで詰め将棋のような一手で寄せられてしまうのです。その一手とは？そうです、もう皆さんおわかりでしょう。捨て駒の△8五桂が妙手。以下▲9六玉

E図



▲先手 持駒 角 金三 香二 歩三
△後手 持駒 飛 桂二

なら△9七飛。▲同歩なら△8七飛▲9六玉△8五飛成▲9七玉△8七龍までで、ピッタリ詰み。ですから遡って1図で▲4一銀はこのように詰まされてしまうので負け。

それでは▲4一銀以外の詰めろがあるのでしょうか。

再掲1図

▲先手 持駒 角 銀二 香二 歩二
△後手 持駒 飛 金 桂

再掲1図をあげておきますので考えて下さい。

ヒントは玉頭からの捨て駒です。桂馬ならすぐわかる一手です。

第2図

▲先手 持駒 角 銀二 香 歩二
△後手 持駒 飛 金 桂

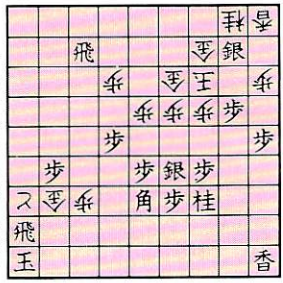
▲2四香（2図）

これが狙っていた必殺の一手。さてこれに対する指し方はいろいろあるのですが、まず放っておいて△9七歩成は、以下▲2三香成△同玉▲2四香△同銀▲同歩△3三玉▲2二銀（F図）の手順で、手数は長いですが（C図）実はここで後手はうまい寄せを用意しているのです。

△8九金が後手の狙っている必殺の一手。（D図）以下▲同玉と金を取りますが、△7八銀と打って▲9九玉に△9八金▲同玉△9七歩成▲同玉（E図）と進みます。

これで一見こちらの王は詰みがなさそうに見えますが、まるで詰め将棋のような一手で寄せられてしまうのです。その一手とは？そうです、もう皆さんおわかりでしょう。捨て駒の△8五桂が妙手。以下▲9六玉

F図



▲先手 持駒 角 銀二 歩三
△後手 持駒 金 桂二 香二

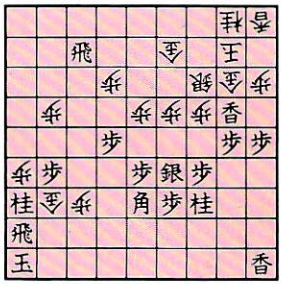
がピッタリ詰みます。ご研究下さい。

ですから2図で後手としては受けなければなりませんが、平凡な△2四同歩は▲同歩で以下△同銀にも▲2三歩△同玉▲2五歩で一手一手（G図）。

G図

そこで後手は▲2四香に対し□4二金引と頑張ってきました。飛車の横ぎきを消して頑張ろうというものですが、こちらは一手でもあくと負けなので▲2三香成□同金▲2四香（3図）と迫りました。

第3図



これも▲2三香成□同玉▲2四銀以下の詰めろなので、後手は受けなければなりませんが、□2四金や□2四銀は簡単にダメです。とにかく銀が1枚入るまでの辛抱ですが、どうやって急場をしのぐのでしょうか。

第4図

□3一桂 ▲2三香成□同桂 ▲2四銀（4図）

後手は□3一桂と2三の地点を受けて頑張ってきます。

しかし私は間髪を入れず▲2三香成から▲2四銀。後手はどう受けるのでしょうか。

第5図

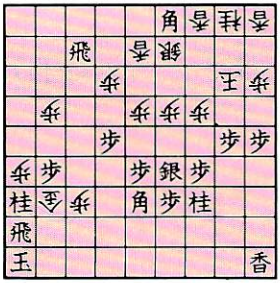
□5二香（5図）

とにかく飛車の横ぎきを消しておかねば、すぐにトン死してしまうので、□5二香と打って粘ります。

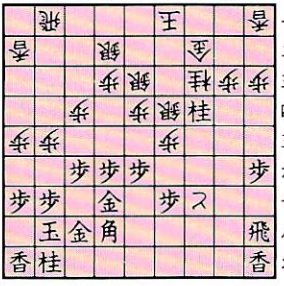
さてここで私の次の一手を当てて下さい。寄せの決め手というべき一手です。

第6図

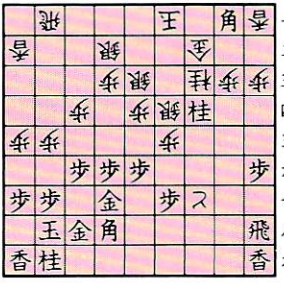
第7図



第1図



第2図



もうおわかりになられましたか？寄せの次の一手は▲4三銀（6図）。

これが決め手で、銀は渡しますがその瞬間に詰ませてしまえばよいわけです。つまり△同金なら▲5二飛成以下簡単に寄ります。

ですから後手は△3一香と粘ってきましたがそこで▲4二銀不成と金を取り、以下△同銀に▲2三銀成△同玉▲4一角で投了となりました。（7図）

まさに一手もあけられない、ギリギリの寄せでした。

次の問題に入ります。局面は攻め切るか受け切るか、ギリギリの勝負です。こちらの攻めのかかり駒は▲3四桂1枚。しかし持駒は角金とかなり強力です。さあ、どう攻めるのが正解でしょう。

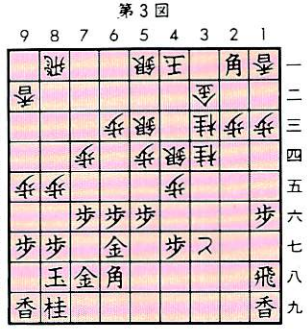
▲2一角（2図）

角と金の協力形はいろいろありますが、2図のような形も手筋の一つです。これは次に▲4三金△同金▲同角成の寄せを狙っています。そこで後手は次のように受けました。

△5一銀（3図）

さすがにしぶとい受けで、

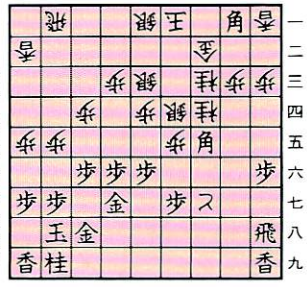
第3図



先程の攻めには▲4三角成の時に△3二金と頑張ろうというものです。

このまま局面の流れが落ち着いてしまうと徐々に盛り返されてしまいます。しかしここで私は必殺の一着を用意していました。

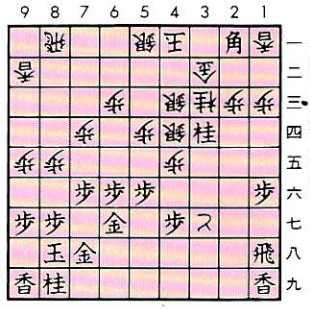
第4図



▲3五角（4図）

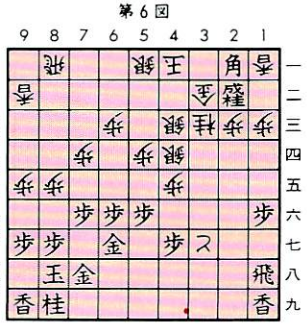
あっと驚くタダ捨ての角が出ました。これを△同銀なら▲4三金△同金▲同角成で5三の銀が浮いているので勝勢。そこで後手は▲3五角に△4三銀と頑張って、▲4四角△同銀右と進んだのが5図。

第5図



5図でどうやって金銀のスクラムを崩していくのがよいのでしょうか。まず考えられるのは▲2二金と打つ手ですが、△3一歩と受けられて後続がありません。かといって放っておくと△3四銀と桂馬を取られてそれまで。ここは軽い手筋の

第6図



決め手があるのです。

そうです、筋に明るい方ならすぐにわかると思います。

▲2二桂成（6図）

軽く桂馬を成り捨てるのが好手。△同金と取れば▲4三角成と銀が取れます。

第7図

▲先手 持駒 金 銀
△後手 持駒 角 桂 歩

後手は△3一歩と頑強に粘ってきました。（7図）こんな時に気をつけていただきたいのは、▲3二成桂などとすぐに駒を取ってしまう手で、△同歩で味消しです。放っておいても△2二金と取れないので（▲4三角成）別の攻めを考える方が得策といえます。

第8図

▲先手 持駒 金 歩
△後手 持駒 角 桂 歩

格言に玉は包むようにして寄せよという言葉がありますが、それを参考に次の一手を考えて下さい。

▲7二銀 △8四飛

▲6三銀成（8図）

飛車のコビンから銀を打つ。これも手筋で以下△8四飛に▲6三銀成と玉の逃げ道をふさぐ手があっては、後手に受ける術はありません。

以下二十数手かかりましたが、危なげなく寄せきることができました。

第1図

▲先手 持駒 金二 銀 桂二 歩
△後手 持駒 角 銀二 歩三

最後の問題に移ります。1図では先手が絶対優勢ですが、いざ寄せとなると自玉との兼ね合いもあるので、その辺りを注意しなければなりません。しかしこちらはまだ多少駒を渡しても詰みそうにない形。豪快にいきます。

第2図

▲先手 持駒 金二 銀 桂 歩
△後手 持駒 角 銀二 歩三

第3図

▲先手 持駒 金二 桂 歩
△後手 持駒 角 銀二 桂 歩三

第4図

▲先手 持駒 飛 金 桂 歩
△後手 持駒 角 金 銀三 桂 歩三

第5図

▲先手 持駒 飛 金 桂 歩二
△後手 持駒 角 金 銀三 桂 歩三

▲3五桂（2図）

持駒は豊富なので気前よくいきます。▲3五桂が手のないところに手をつくる好手。

放っておけばもちろん飛車を取られますので、取るか逃げるかですが、飛車を逃げるのは、こんなところに大きなかかり駒を残されるのでいけません。

△同歩　▲3四銀

△6三飛（3図）

そこで△同歩と取りますが、▲3四銀が継続した手で、△6三飛と逃げた時に強引ながら、決め手というべき一手があります。

▲4三金　△同飛

▲同銀不成　△同金（4図）

普通二枚換えなら歩ともせよと言われるぐらい、駒損は嫌われるのですが、終盤は駒得よりスピード、つまり先手を取る方が駒損よりも大きい場合があります。

▲4三金打ちは以下飛車と金銀の交換ですが、強烈な寄せを狙っての着手でした。

▲2四飛　△3三玉（5図）

▲2四飛が当然ながら厳しく、△2三歩合なら▲2一飛以下の即詰みを狙っています。

第6図

▲先手 持駒 金 桂 歩二
△後手 持駒 角 金 銀二 桂 歩三

そこで△3三玉とかわしましたが、どどめの一手が出ました。

▲2二飛打（6図）

平凡な▲2一飛成ではなく、飛車を重ねて打つ感覚の▲2二飛打が相手に粘りを与えない決め手。

以下後手も△3二銀と頑張ってきましたが▲2三金△4二玉▲3二飛成△5三玉▲3三金（7図）と平凡に攻めて、勝ちとなりました。

谷川疾風流寄せの極意はいかがでしたか。皆さんの上達を願っております。

（了）

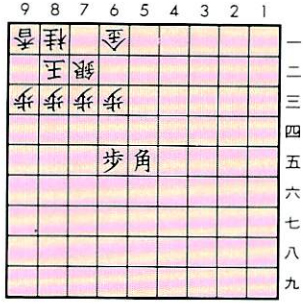
第7図

▲先手 持駒 銀 桂 歩二
△後手 持駒 角 金 銀二 桂 歩三

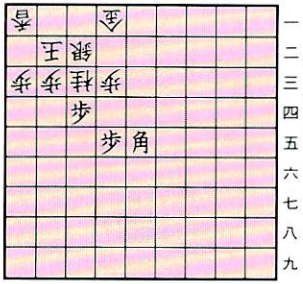
続・谷川疾風流 寄せの奥義

基礎編 実戦編

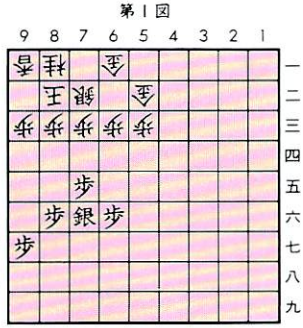
第1図



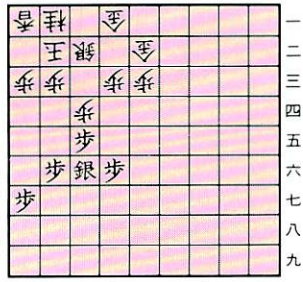
第2図は▲7四歩まで



第1図



第2図は▲7五歩まで



◎美濃囲いの崩し方

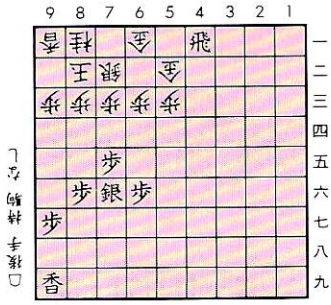
前回も美濃囲い攻略は重点をおいて解説しましたが、今回もやはり実戦でよく出てくる形ということで、多くの例を紹介したいと思います。

1図は攻め駒が角と歩だけですが、美濃囲いの急所の玉のコビンを攻めることによってかなりの戦果が期待できるのです。

▲7四歩が急所の一手。これで相手が放っておけば▲7三歩成　△同桂▲7四歩（2図）

このように攻め、何度でもおかわり攻撃ができます。

第1図

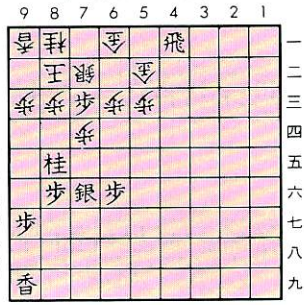


1図は前例の持駒・金銀の変わりに飛車が攻め駒に打ってあります。歩を使っての早い攻撃は

▲7四歩　△同歩
▲7三歩　△同玉
▲8五桂　△8二玉
▲7三歩（2図）

まず▲7四歩の攻めは当然ですが、△同歩に▲7三歩が疾風流。これを△同桂ですと▲7五歩と合わせ、△同歩に▲6一飛成△同銀▲7四桂以下詰み。で本譜の進行ですが、2図から△同桂でも▲同桂成△同玉▲8五桂△8二玉▲7三歩と同じように繰り返せばOK。

第2図は▲7三歩まで



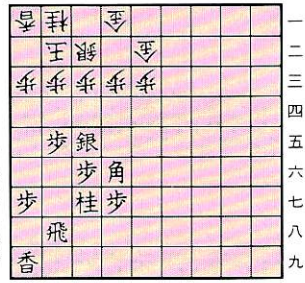
大駒がなくて細かい攻め筋を要求される場合もあります。

1図はガッチリ堅い金銀3枚の美濃囲い。どうやって攻略すればよいでしょうか。この場合も先ほどと同じく、玉のコビンを狙います。その手順は

▲7四歩　△同歩
▲7五歩（2図）

このようにコビンをつついていきます。放っておけば▲7四歩の取り込みが大きな拠点になりますし、△7五同歩なら▲7四桂△7三玉▲8二銀以下の即詰みがあります。

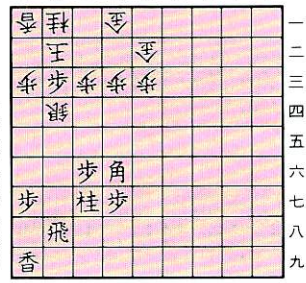
第1図



次に玉頭攻めを紹介しましょう。1図は〝攻めの基本は飛角銀桂歩〟のセオリーの理想的な構えで美濃囲いをにらんでいます。イッキにいきましょうか。

▲8四歩　△同歩
▲8三歩　△同銀
▲8四銀　△同銀

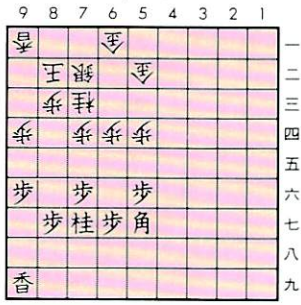
第2図は▲8三歩まで



▲8三歩（2図）

▲8四歩は当然ですが、△同歩に▲同銀では△8三歩と打たれて攻めが続きません。そこで相手に受ける空間を与えない▲8三歩が急所の一着となります。そして2図まで、執拗な▲8三歩の筋を覚えて下さい。

第1図



美濃囲いの最後は端攻めを2例紹介しましょう。

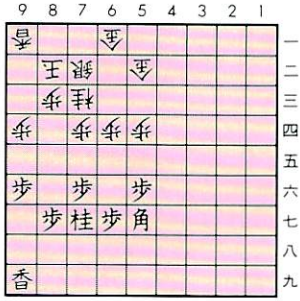
端攻めは美濃囲い攻略に欠かせない攻め筋の一つで、前回の寄せの奥義でもかなり解説しました。

その時は歩の連打などの端攻めが主でしたが、今回はまた違った攻め方です。

第2図は▲9八香打まで

1図、持駒が香1枚ですが、5七の角が遠く9三の地点に利いてます。こんな場合じっと▲9八香打ちと重ねて打つか、あるいは▲9五歩△同歩▲9八香打ち（2図）のように、端に集中攻撃をかけるのが効果的です。

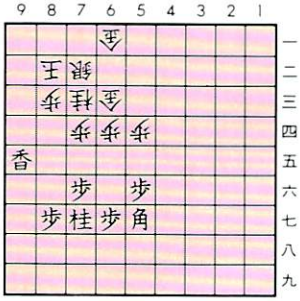
第1図



1図を前問と見比べてみて下さい。あれ？持駒が桂馬に代わっただけで一緒じゃないか。と思われるでしょう。そう、持駒が変わっただけなのですが、この場合は？

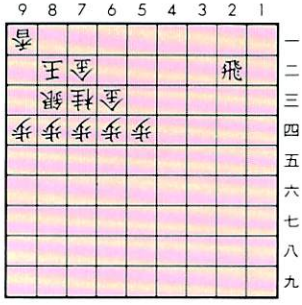
▲8六桂　△6三金
▲9四桂　△同香

第2図は▲9五同香まで

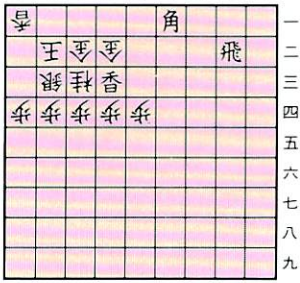


▲9五歩　△同香
▲同香（2図）
▲8五桂はよく出てくる〝控え桂の手筋〟で、▲7四桂と跳ねられるのもたまりませんから△6三金と守りますが、逆に端にモーションをかけて2図まで、見事端攻めが成功します。

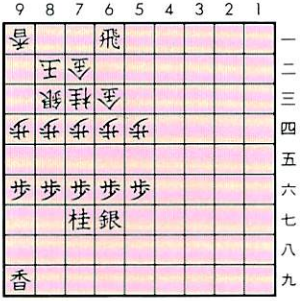
第1図



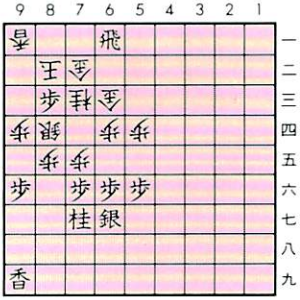
第2図は▲6三香まで



第1図



第2図は▲8三歩まで

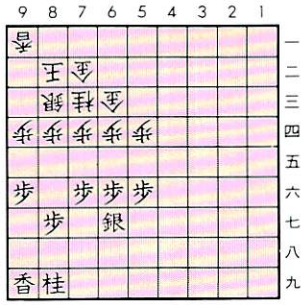


◎銀冠りの崩し方

美濃囲いが発展すると、高美濃、銀冠りと囲いの名称も変わります。

銀冠りの特長は上部に強く玉のフトコロが広いところです。ですから、粘らせないよう的確に攻めないと大変なのです。

第1図



先ほどまでは大駒の力を借りた攻めをご覧頂きましたが、実戦ではそうそう思うようにはいきません。中盤の戦いで細かい攻めでリードをして、囲い攻略に大きな足がかりをつけることも大切です。

1図は持駒が桂と歩しか

1図、銀冠りに対して飛車が敵陣に、持駒に角と香があります。強力な攻撃陣でごんなな場合は比較的簡単に攻略できます。

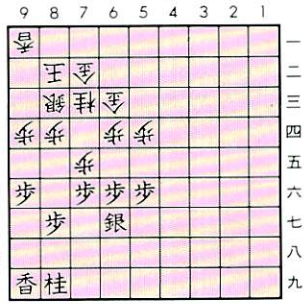
▲4一角 △6二金引

▲6三香（2図）

飛車の横効きを利用した

▲4一角が強烈であっさり。

第2図は▲7六歩まで



ありません。こんなので攻めになるのか！と疑問に思われる方も多いでしょうが、案外手はあるものです。

▲7五歩 △同歩

▲7六歩（2図）

2図以下△同歩なら▲7五桂、放っておけば▲7五歩で大きな橋頭堡完成。

今回は大駒が飛車1枚ですので、細かい攻めが要求されます。1図で玉頭攻めだとピンときた人はなかなか棋理に明るい人です。

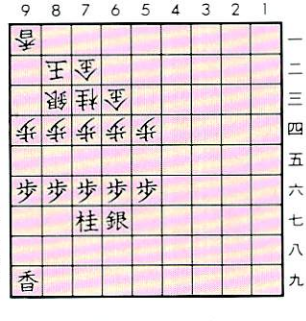
▲8五歩 △同歩

▲8四歩 △同銀

▲8三歩（2図）

銀冠りがいくら上部に厚

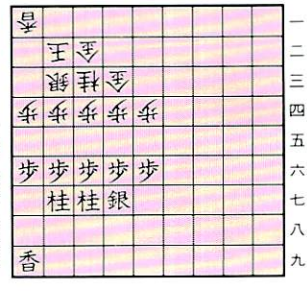
第1図



本題の場合はどうでしょうか。前回と違って歩がないので、継ぎ歩することはできません。でも持駒の桂を最大限に使ううまい手があります。

そう、格言にもありますね〝桂はひかえて打て〟と。もうおわかりでしょう。▲

第2図は▲8七桂まで



8七桂（2図）と力をためるのが正解。

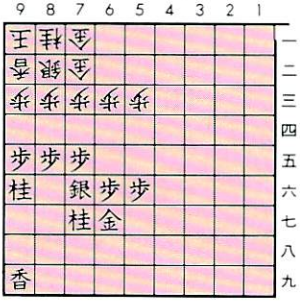
これで次に▲7五歩△同歩▲同桂の順を狙うのです。実戦でこのような形が出てきたら、ぜひ思い出して下さい。

いといっても、筋で攻めれば簡単に攻略できる好例です。

▲8五歩と突き捨て、▲8四歩と銀頭に打ち、▲8三歩の王手。大変覚え易い攻め筋です。これが瞬時にひらめくようになればよいのですが。

第1図

第2図は▲9六桂まで



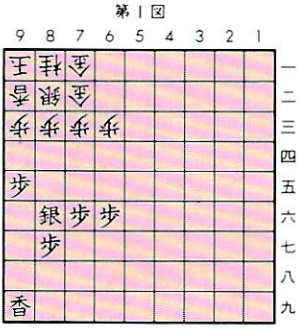
◎穴熊囲いの崩し方

さあいよいよ穴熊囲いの登場です。堅さに関しては美濃囲いや矢倉囲いよりも堅く、何といっても絶対王手のかからない点が終盤の寄せ合いで大きな魅力です。

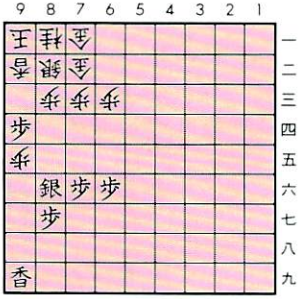
この穴熊、攻略法を知らずに戦えばこの上ない堅さに感じるでしょうが、攻めの手筋を知っていれば比較的簡単に攻略できる場合があります。

1図、持駒は桂だけですが前回習った手筋で簡単ですね。そう、▲9六桂（2図）と控えて打ち、次に▲8四歩を狙います。

第1図



第2図は▲9四歩まで



端攻めを絡めるのも美濃囲い同様、穴熊攻略の決め手になる場合があります。

1図、桂馬の参加していない攻めなので、端攻めがあるようには思えませんが、いやいや、歩を使って細かくせめる術があります。

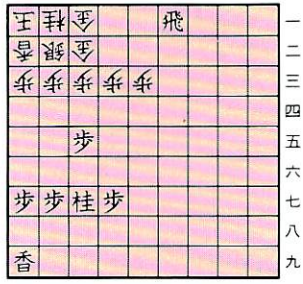
▲9四歩 △同歩

▲9五歩 △同歩

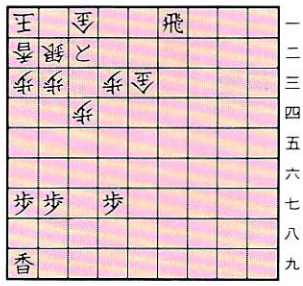
▲9四歩（2図）

堅そうな端の守りですが、2図まで歩使いの妙で拠点を作りました。以下△同香なら▲8五銀△9三銀▲9四銀△同銀▲9八香打などを狙い、放っておけば▲9五銀と進出して十分。

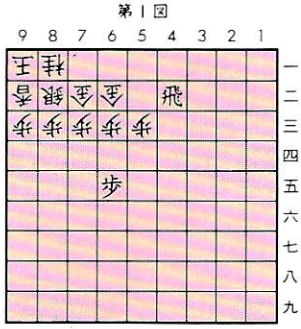
第1図



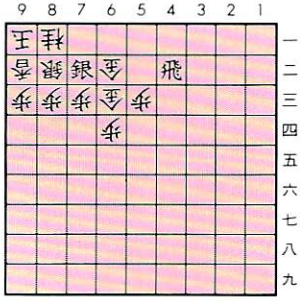
第2図は▲7二歩成まで



第1図



第2図は▲7二銀まで



大駒が加わるとより一層破壊力を増します。

1図、まったく無キズの穴熊囲いですが、一連の手筋によってあっさり土俵を割るでしょう。手順が長いのでよく読んで下さい。

▲7四歩　△同歩
▲7三歩　△同銀
▲6五桂　△8二銀
▲7三歩　△同桂
▲同桂成　△同銀
▲6五桂　△8二銀
▲7三歩　△6二金寄
▲5三桂成　△同金
▲7二歩成（2図）

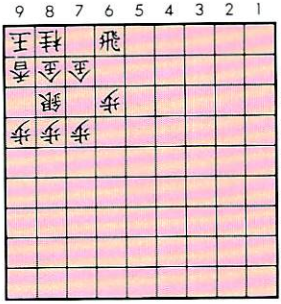
とにかく攻める場所は一点、7三の地点です。

1図は7一の金が6二にある穴熊で、これも相振り飛車の実戦などでよく見かける構えです。この形の急所は前題の7筋ではなく、堅そうに見える6筋がネライ目です。

▲6四歩　△同歩
▲6三歩　△同金右
▲7二銀（2図）

ポンポンと歩の軽打で金2枚の連携を崩すのが攻略への近道。2図の▲7二銀まで、見事に穴熊城に取りつきました。

第1図



▲先手　持駒　桂　歩二
△後手　持駒　なし

変形穴熊をもう2題紹介しましょう。穴熊の戦いで長期戦になった場合によく出てくる構えです。

しかし攻め方は従来の穴熊攻略の手筋とほとんど変わりませんので、形にまどわされないようにして下さい。

第2図は▲7三歩まで

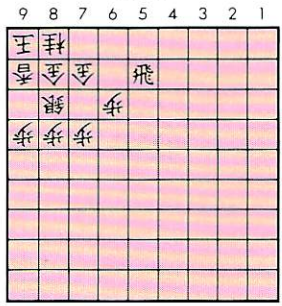
▲先手　持駒　なし
△後手　持駒　歩

1図、これはもうおわかりですね。急所は7筋です。

▲7三歩　△同金直
▲6五桂　△7二金引
▲7三歩（2図）

▲7三歩以下の攻めがスクラムを崩す常套手段だと覚えて下さい。

第1図



▲先手　持駒　銀　歩三
△後手　持駒　なし

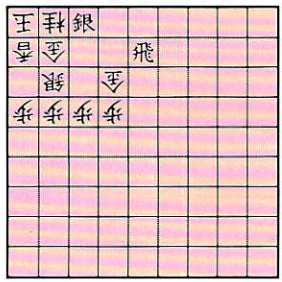
本題はどうでしょうか。ゆっくりした手が間に合うのなら▲6二歩でも十分ですが、少し足早に攻めてみましょう。

▲6四歩　△同歩
▲6三歩　△同金
▲7一銀（2図）

習いある手筋で7二の金をつり出し、▲7一銀とかければたちまち詰めろです。以下△7二金とかわせば▲同飛成△同銀▲8二金までの詰み。

ですから▲7一銀に△7二銀なのに引く一手ですが、▲8三歩の軽手で受けなしとなります。

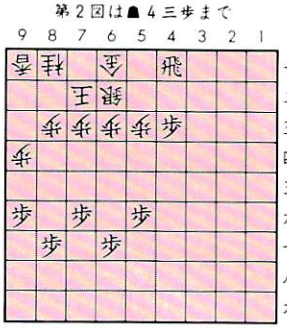
第2図は▲7一銀まで



▲先手　持駒　歩
△後手　持駒　歩二

第1図

第2図は▲4三歩まで



◎舟囲いの崩し方

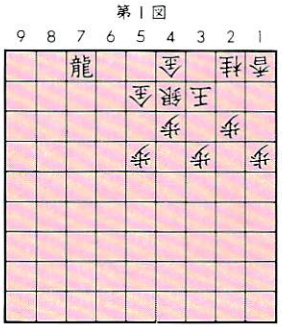
舟囲いといえば対振り飛車の居飛車側の囲いの代名詞ですが、振り飛車の場合にでも、美濃に囲わず舟囲いにする場合もあります。例題を挙げましょう。1図は飛車を下段に下ろして持駒が金と歩。どうやって攻めれば一番効果的でしょうか。

▲4三歩（2図）

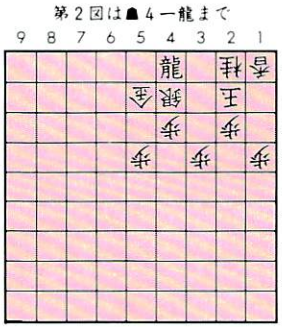
これが効果的な攻め方で、▲4二歩成となれば次に▲6一飛成△同玉▲8二金の必殺の寄せがあります。

と金を作れるチャンスがあるのなら、見逃す手はありません。

第1図



第2図は▲4一龍まで



続いて対振り飛車舟囲い。1図、いかにも堅そうな敵陣ですが、持駒の角をある置所に打つことによって一挙に崩壊します。

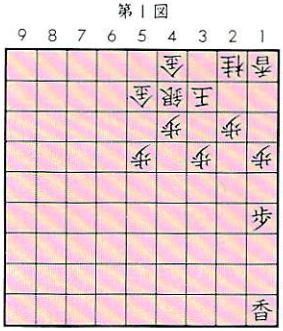
▲2二角 △同玉

▲4一龍（2図）

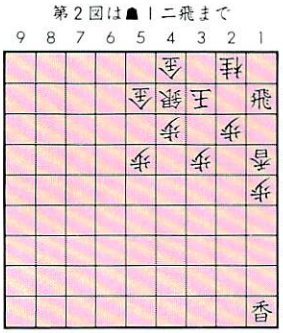
▲2二角が急所。放っておくと次に▲1一角成があるので△2二同玉と取りますが、▲4一龍と金を取ってなおかつ5二の金にあたっています。

以下△5一金なら▲3二金があります。

第1図



第2図は▲飛二1まで



第1図

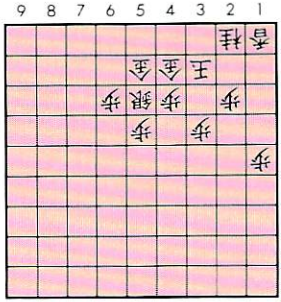
第2図は▲6三歩まで

持駒に飛車がある場合はどうでしょうか。端攻めを絡めて攻める手筋があります。

▲1五歩　△同歩
▲1二歩　△同香
▲1三歩　△同香
▲1四歩　△同香
▲1二飛（2図）

美濃囲いで端攻めをされ苦渋をなめていた振り飛車も、逆に端攻めが決まればさぞかし気持ちのよいことでしょう。難しい手はありません。歩の連打から王手香取りまで、流れるような攻略ができました。

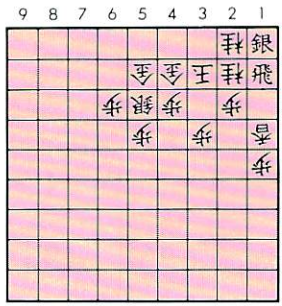
第1図



▲先手　持駒　飛銀桂

△後手　持駒　なし

第2図は1一銀まで



▲先手　持駒　なし

△後手　持駒　なし

端から強引に突破する方法をご覧頂きましょう。持駒は飛車銀桂と豊富ですが、歩がありません。こんな場合、特に終盤でよく出てくる手筋です。

▲1四桂　△同香
▲1二飛　△2二桂
▲1一銀（2図）

▲1四桂と香車の効いているところに打つのが急所。放っておくと▲2二飛があるので△同香と取る一手ですが、▲1二飛から▲1一銀と絡んで2図、後手には適当な受けがありません。歩がない場合でも端攻めはあるのです。

1図は舟囲いから△5三銀△4二金直の2手を入れた構えです。この形も数多く実戦で現れ、振り飛車党を悩ませます。

まずは歩での攻略法から。

▲6四歩　△同歩
▲6三歩（2図）

ここまで再三再四、と金作りの手筋を見てこられた皆さんには簡単なことだったと思います。

ただこのような手筋が実戦で使えるかどうか、これが問題です。そのためにも体でピンとくるように感覚を養いましょう。

第1図

▲先手　持駒　桂（香）

△後手　持駒　なし

舟囲い攻略には振り飛車側の構えも重要になってきます。例えば1図のように、高美濃囲いに囲っておいて、飛車が敵陣に進入した場合、おそらく桂とか香を手駒に加えていると思います。

例えば桂馬を持っている場合は▲4六桂あるいは▲2六桂と控えて打ち、次に▲3四桂の角金両取りを狙います。

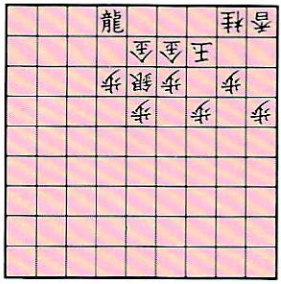
香車を持っている場合は▲2六香と打ち、次に▲2三香なり△同玉▲2一龍（2図）と背後から攻めたてて攻略するのです。

第2図は▲2一龍まで

▲先手　持駒　桂　歩

△後手　持駒　香

第1図



▲先手 持駒 角 銀 香

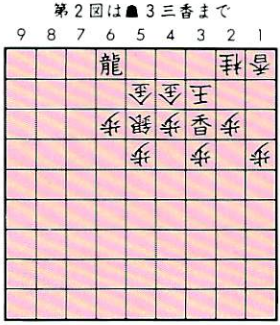
△後手 持駒 金

持駒が角銀香と豊富な場合はイッキに攻略できます。1図、さあどこから手をつけるのでしょうか。後手の持駒に金があることに注意して考えて下さい。

受け駒がない場合は▲2六香で十分なのですが、この場合は△5一金打とはじかれてしまいます。正解は▲3三香（2図）。これが焦点に香をタダで捨てる絶妙手で、あっという間に受けなしになってしまいます。

△3三同金は▲5二龍
△3三同玉は▲2一龍
△3三同桂は▲2一銀△2二玉▲3一角。

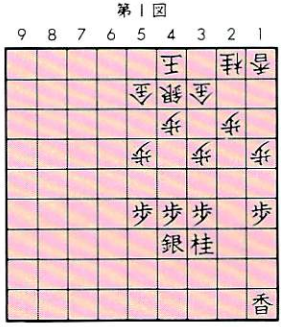
第2図は▲3三香まで



▲先手 持駒 角 銀

△後手 持駒 金

第1図



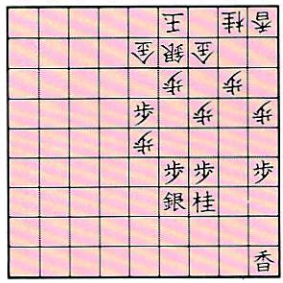
▲先手 持駒 歩

△後手 持駒 なし

◎カニ囲いの崩し方

カニ囲いとはあまり聞きなれない名称かもしれません。これは相居飛車の戦いて急戦になった場合など、矢倉に組むことができず簡略に囲ったものをそう呼びます。実戦で一度は見られたこともあると思いますが、1図のような構えで陣形が低く、結構粘りある形といえます。ただこの構えは1・2・5筋にやや欠点があり、そこを的確に攻めれば比較的簡単に攻略できます。1図の場合▲5五歩△同歩▲5四歩（2図）と拠点を作って次に▲4五桂です。

第2図は▲5四歩まで



▲先手 持駒 なし

△後手 持駒 歩

第1図

▲先手 持駒 歩三

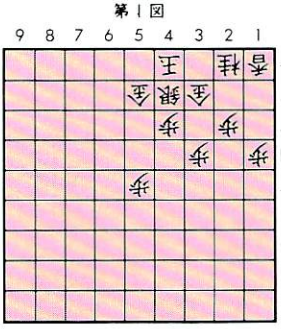
△後手 持駒 なし

第2図は▲2四歩まで

▲先手 持駒 なし

△後手 持駒 歩四

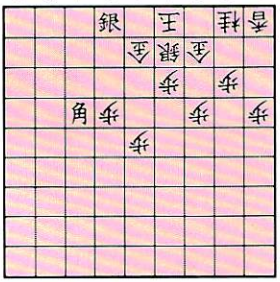
第1図



▲先手 持駒 角 銀 歩二

△後手 持駒 歩

第2図は▲6一銀まで



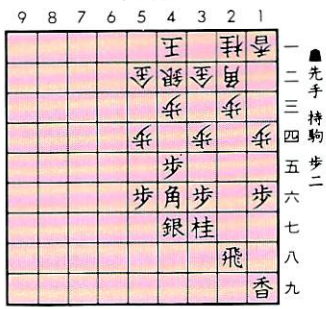
▲先手 持駒 歩

△後手 持駒 歩二

本題の場合はどうでしょうか。先ほどの▲5五歩は2二の角が利いていて△同角と取られてしまいます。そこで二つの攻め筋を考えてみましょう。一つは▲2四歩△同歩▲2五歩△同歩▲2四歩の継ぎ歩十タラシ歩で攻めるもの。これは以下△4四角▲2五飛△2二歩となりますが、2筋を詰めたことが大戦果。

もう一つは▲1五歩△同歩▲1三歩△同香▲1四歩△同香▲2四歩（2図）で、△同歩なら▲同飛で1四の香取りが受かりません。ぜひ覚えて下さい。

第1図

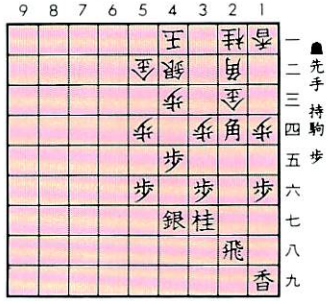


1図のような形も実戦でよく現れます。スピード感をつけて攻め込むのなら、この一手ともいうべき攻めがあります。

▲2四歩 △同歩
▲2三歩 △同金
▲2四角（2図）

角の頭は比較的薄く、常に狙いをつけてもよい場所です。▲2四歩から▲2三歩のタタキが急所。以下△同金に角を飛び出し、次に成の狙いがあるので△同金と取りますが、▲同飛と走って2筋突破は大成功。

第2図は▲2四角まで



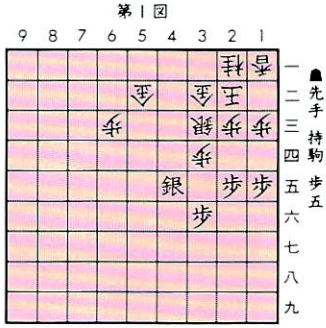
美濃囲いの時もそうでしたが、玉のコビンというのはやはりこのカニ囲いでも急所です。特に角がある場合うまく攻めるといっぺんに致命傷になることがあります。

1図は▲5五歩△同歩と突き捨てたところだと思って下さい。さてここからの攻略法は

▲7四角 △6三歩
▲6四歩 △同歩
▲6一銀（2図）

コビンを狙う▲7四角打ちが急所。角利きを止める△6三歩にも本譜のように絡んで成功です。

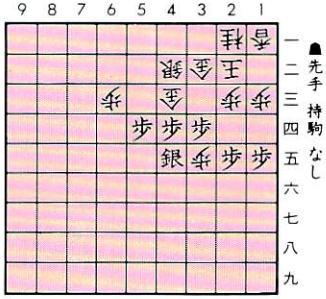
第1図



◎矢倉囲いの崩し方

いよいよ居飛車の最大の要塞・矢倉囲い攻略に入りたいと思います。ちょっとその前に1図をご覧下さい。まだ完ぺきな矢倉にはなっていませんが、ぜひ覚えていただきたい手筋がありますので参考までに。

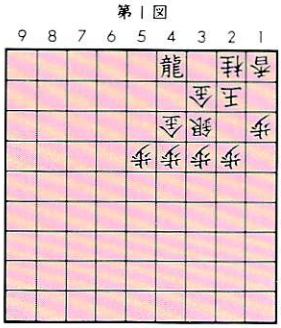
第2図は▲4四歩まで



▲3五歩 △同歩
▲3四歩 △4二銀
▲4三歩 △同金右
▲4四歩 △5三金
▲5四歩 △5二金
▲4三歩成 △同金右
▲4四歩

このような歩の使い方をダンスの歩と呼びます。

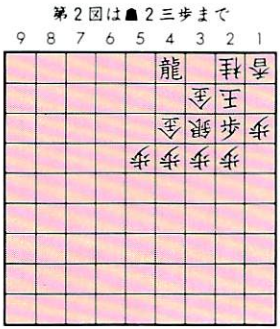
第1図



1図はしっかりした矢倉に見えますが、ちょっと変ではありませんか？

そうですね、普通の矢倉なら2三の地点に歩があるのに、2四歩となっていますね。これは中盤の戦いなどで攻撃側が2筋を突き捨てた場合によく出てきます。

第2図は▲2三歩まで



例題の場合、たった1歩しかありませんが、本当にこれだけであっという間に必勝形を築くことができるのです。

簡単でしょう。▲2三歩の王手！（2図）ハイそれまで。以下□同王は▲2一龍。□同金▲4三龍…。

第1図

本題は実戦によく出てくる形です。ここからの攻め方を知っていれば、矢倉は簡単に攻略できるでしょう。

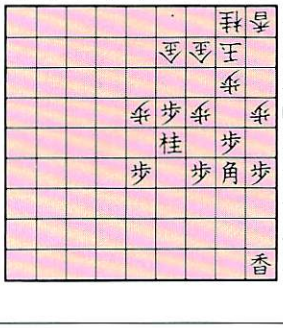
▲2四歩　□同歩
▲2五歩　□同歩
▲同桂　□2四銀
▲4五歩　（2図）

このように飛角が好位置にある場合は存分にその能力を発揮する攻撃が可能です。まず▲2四歩と突き、□同銀なら▲4五歩と角の利き筋で攻めます。で□同歩ですが▲2五歩のツギ歩が習いある手筋。以下2図まで、見事に攻めが成功します。

第2図は▲4五歩まで

第1図

朝2図は▲4五桂まで



第1図

第2図は□3二銀まで

4筋から攻撃する方法を紹介しましょう。1図は持駒が歩2枚だけですが、果してこれで矢倉城を揺さぶることができるのでしょうか。

▲4五歩　△同歩
▲4四歩　△同銀
▲4五銀　△同銀
▲4四歩　△4二金引
▲4五桂（2図）

▲4五歩は当然として、△同歩に▲4四歩が急所。△同金なら▲4五桂があるので銀で取りますが、そこで▲4五銀とぶつけて△同銀に再度の▲4四歩が飛びます。このタイミングです。

第1図

▲先手　持駒　角　歩二
△後手　持駒　なし

端攻めを3題紹介しましょう。どんな囲いにおいても端攻めは急所ですが、矢倉もやはり端から攻略される場合が多いのです。1図、端攻めに必要な桂馬もなく、まったく攻め込める気配がありません。しかしこんな形でも手はあるものです。

第2図は▲4七角まで

▲先手　持駒　歩
△後手　持駒　歩一

▲1五歩　△同歩
▲1三歩　△同香
▲4七角（2図）

▲1三歩と香車を釣り上げておいてからの▲4七角が好手。次に▲2四歩△同銀▲1四歩△同香▲同角の香得を狙っています。ちょっと浮かびにくい筋でした。

スカッとする寄せをご覧いただきましょう。1図、大駒2枚が敵陣深くに進入しています。持駒の銀と協力して、イッキに寄せ切る順があります。

▲4三角成　△同金
▲3二銀（2図）
▲4三角成の英断が急所。

第1図

▲先手　持駒　歩
△後手　持駒　なし

1図は▲2五桂と跳ねたのに対して△4二銀と3三の銀を逃げたところ。端攻めを厳しくする手筋があります。

▲3三歩　△同桂
▲1三桂成　△同香
▲1四歩　△同香
▲同香（2図）

△同金よりありませんが、ここで寄せの手筋〝銀はハラから打て〟を地でいく▲3二銀が決め手で、受けがありません。すなわち放っておけば▲2一龍までの詰み。△同玉も▲3一金以下の即詰みです。一気に必至に持ち込む問題でした。

第2図は▲1四同香まで

▲先手　持駒　香　歩
△後手　持駒　桂　歩一

▲3三歩かこの形の急所。△同桂と取った場合はその桂馬を取らずに、逆に▲1三桂成と成れば、2図の▲1四同香まで見事に端を突破できます。

第1図

▲先手 持駒 金 歩二

△後手 持駒 なし

最後は一気に敵玉を即詰みに討ち取る攻めをご覧いただきましょう。1図理想的に端に殺到できる構えですが、さて。

▲1四歩 △同歩
▲1二歩 △同香
▲1三歩 △同香
▲同角成 △同玉

第2図は▲1五香まで

▲先手 持駒 金 歩

△後手 持駒 角 香 歩二

▲1四香 △同玉
▲1五香（2図）

端歩をついて▲1二歩がスピード感あふれる一手。さらに▲1三歩と叩き△同香に▲同角成が決め手で、以下2図まであっという間の即詰みとなりました。それでは実戦編に入ります。

第3図は▲4五歩まで

▲先手 谷川 持駒 銀 桂

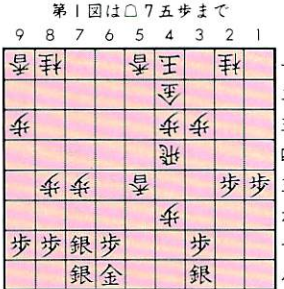
△後手 加藤 持駒 飛 角 歩六

第4図は▲7七同桂まで

▲先手 持駒 飛 銀 桂 歩四

△後手 加藤 持駒 飛 角 銀二 歩四

第1図は△7五歩まで



▲先手 谷川 持駒 角 銀 桂 歩三

△後手 加藤 持駒 飛 角 歩三

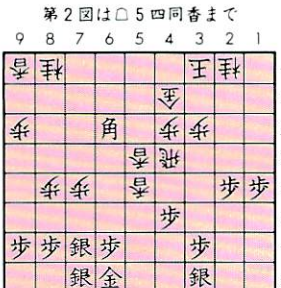
A級順位戦第1局は重戦車の異名をとる、加藤(一)九段との対戦になりました。さてその終盤戦、私の陣地には金銀6枚がある珍形でかなりの堅さです。

それでも△5七香成が間に合ってくると危なくなるので、案外急かされているのも事実です。さてどこから手をつけますか。

▲6三角 △3一玉
▲5二歩 △同香
▲5三歩 △同香
▲5四歩 △同香（2図）

▲6三角はすぐ発見できるでしょうが、5筋の歩の連打は苦心の一着でした。

第2図は△5四同香まで



▲先手 谷川 持駒 銀 桂

△後手 加藤 持駒 飛 角 歩六

第3図は▲4五歩まで

▲先手 谷川 持駒 銀 桂

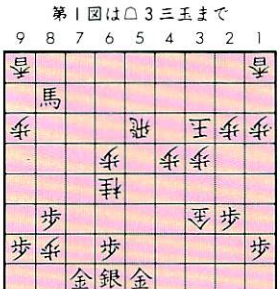
△後手 加藤 持駒 飛 角 歩六

第4図は▲7七同桂まで

▲先手 持駒 飛 銀 桂 歩四

△後手 加藤 持駒 飛 角 銀二 歩四

第1図は△3三玉まで



▲先手 谷川 持駒 飛 金 銀 歩

△後手 加藤 持駒 角 銀二 桂二 歩五

第2図は△4六桂まで

▲先手 谷川 持駒 金 歩二

△後手 加藤 持駒 飛 角 銀二 桂 歩五

さて香車を釣り上げた意味は？

▲4五歩　（3図）

そうです。この歩が突きたいからこその歩の連打でした。△同飛は▲5四角成、△3四飛は▲4六桂で必勝。

△7六歩

▲4四歩　△7七歩成

▲同銀　△7八歩

▲同玉　△7六歩

▲4三歩成　△7七歩成

▲同桂（4図）まで谷川の勝ち。

加藤九段も受けなしとみてか、本譜の順で形作りをされました。歩の連打が印象に残っています。

第3図は△5二銀まで

▲先手 谷川 持駒 飛 金 歩二

△後手 有吉 持駒 角二 銀二 桂 歩五

自玉はすでに受けがなくなったので、攻めるよりありません。

▲5三馬　△同玉

▲5一飛成　△5二銀

（3図）

自玉が受けなしならば王手の連続で詰まさなければなりません。3図まではこう進むものですが、ここからが問題です。

第4図は△8六玉まで

▲先手 谷川 持駒 なし

△後手 有吉 持駒 角二 銀 桂 歩七

▲6三金　△同玉

▲6二飛　△7四玉

▲7五歩　△同玉

▲7一龍　△7四金

▲7六歩　△8六玉

（4図）

2枚飛車の連携で…。

第2局は〝火の玉流〟で知られる、関西の有吉九段との一戦。なお解説の便宜上、第2・4・5・7・9局は私の後手番ですが、すべて先手番になっています。

1図はその終盤戦、ここでは次に△5八飛成以下の即詰みをみられて私の苦戦。尋常な勝負では勝てそうにありません。

▲3一飛　△3二銀

▲4二銀　△同玉

▲6四馬　△4六桂

（2図）

▲4二銀から▲6四馬と間接的に△5八飛成を防ぎました。△4六桂には。

第5図は△6五同金まで

▲先手 谷川 持駒 桂

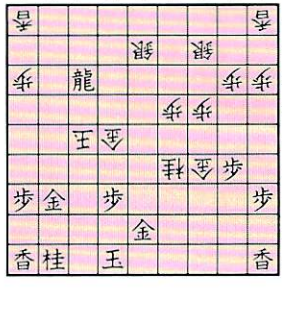
△後手 有吉 持駒 飛 角二 銀二 桂 歩七

▲7七銀　△8五玉

▲6五飛成　△同金（5図）

手駒がないので、自陣の駒を使って王手を続けなければなりません。▲7七銀から▲6五飛成と桂を取って5図。あと一息で寄せ切ることができますが、次なる妙手は？

第6図は▲7三龍まで



▲先手 谷川 持駒 桂 歩

△後手 有吉 持駒 飛 角二 銀二 桂 歩八

▲8六銀　△同玉

▲8二龍　△7六玉

▲8七金　△7五玉

▲7三龍（6図）まで谷川の勝ち。

▲8六銀が妙手。△8四玉は▲7五銀△8三玉▲9五桂以下詰み。難解な終盤でした。

第1図は□3八金まで

□後手 青野 持駒 桂 歩三

第3局は将棋界きっての研究家・青野八段との対戦になりました。1図、青野八段は□3八金とシバってきました。平凡な手では寄せられそうです。詰めろ、詰めろで迫らなければなりませんか。

▲3四桂（2図）

第2図は□3四桂まで

□後手 青野 持駒 桂 歩三

とにかく□7七歩成がきては負けです。▲3四桂が狙っていた手。□同金なら▲5二馬と金を取り、□同馬なら▲2三飛成以下詰みで私の勝ち。

そこで青野八段は辛抱の一手を選びました。

第3図は□3三馬まで

□後手 青野 持駒 桂 歩三

□3二金

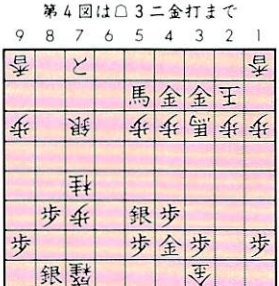
▲5二馬　□1五馬

▲3七歩　□3三馬

（3図）

□3二金はつらい辛抱ですが、▲4二桂成なら□同金右で頑張ろうというものです。□5二馬が好手。□同馬なら▲2二歩以下詰み。

第4図は□3二金打まで



□後手 青野 持駒 飛 桂二 歩四

3図、□3三馬の頑張りに

▲2二歩　□同金

▲3一飛　□同玉

▲4二金　□2一玉

▲2二桂成　□同玉

▲3二金打（4図）まで谷川の勝ち。

▲2二歩から▲3一飛の寄せ方を参考に。

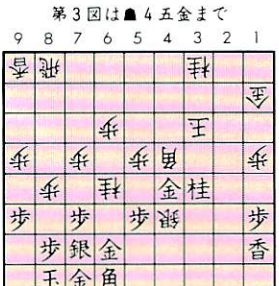
第1図は□2一金打まで

□後手 桐山 持駒 銀 歩四

第2図は□4六同銀まで

□後手 桐山 持駒 銀 香 歩四

第3図は▲4五金まで



□後手 桐山 持駒 飛 銀 香 歩四

第4図は□8六歩まで

□後手 桐山 持駒 飛 銀 香 歩四

第4局は、玄人受けする渋い受けを連発する関西の桐山九段との対局。相矢倉で始まった本局だが、私が飛車を成って進入したのに対し、1図は△1二金打と桐山九段が龍を生け捕りにきた局面。冷静に急所を見極めなければダメです。

▲4五歩　△同銀
▲4九香　△4六歩
▲同香　△同銀（2図）

後手の狙いは、龍を取った後、上部を開拓して入玉を目指すことです。逆にいえば上部を開拓させてはダメなのです。そこで4筋から攻撃を仕掛けて……。

ここで平凡に▲4六同角と取るのは、△4五銀打以下紛れてしまいます。

▲1二龍　△同金
▲4五金（3図）

1一の龍も無条件に取られては大損なので、ここら辺りが切り時。そしてグッと▲4五金と押さえるのが好手。次に▲3四銀からの寄せを狙っています。

△3四歩
▲4六角　△8六歩
（4図）

桐山九段は〝敵の打ちたい所へ打て〟の格言通り△3四歩と打ち、▲4六角に△8六歩と待望の反撃です。

第5図は△4七飛まで

▲先手 谷川 持駒 角 銀二 歩四
△後手 桐山 持駒 金 銀 香 歩三

この△8六歩は基礎編にも出てきた矢倉攻略の手筋で、やっかいな歩なのです。

▲8六同歩は△8七歩と叩かれ、▲同玉△4九飛とイヤな展開になります。

▲4四金　△同玉
▲8六銀　△4七飛
（5図）

第6図は▲4五歩まで

▲先手 谷川 持駒 角 銀 歩三
△後手 桐山 持駒 金 香 歩三

私は禍根である角を取り、▲8六銀と歩を払いました。こちらの方が堅いと思ったからです。続く△4七飛に。

▲3七銀　△6九銀
▲4五歩（6図）まで谷川の勝ち。

6図で攻防共に見込みなしと、桐山九段は投了。

第1図は△7三銀まで

▲先手 谷川 持駒 飛 角 桂 歩五
△後手 米長 持駒 金 桂 歩

順位戦も中盤、第5局はさわやか流とも泥沼流とも恐れられる米長九段との対戦です。1図はすでに私の方が優勢ですが、飛車を取られると△5八飛以下の詰みがあり、うかうかできません。

▲3四桂　△3一玉

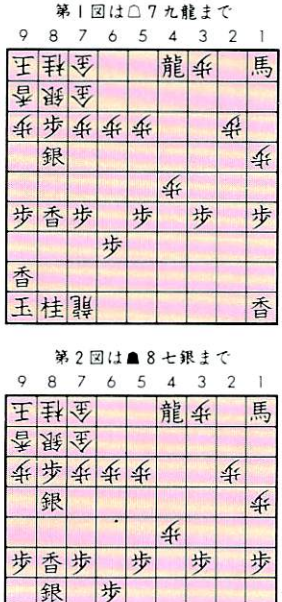
第2図は△6一歩まで

▲先手 谷川 持駒 角 歩五
△後手 米長 持駒 金 桂

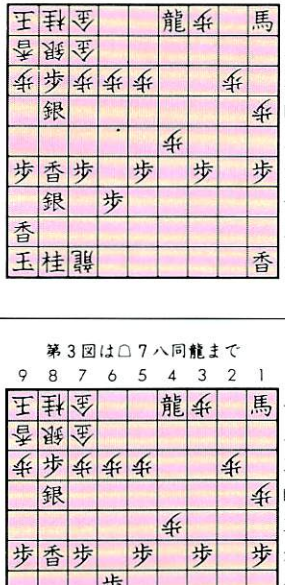
▲8一飛　△6一歩
（2図）

▲3四桂に△同銀は▲同飛で、大駒が助かって後手の指し切り。そこで△3一玉と逃げますが、▲8一飛と王手！△6一歩にここで私は一番早い寄せを逆してしまいました。

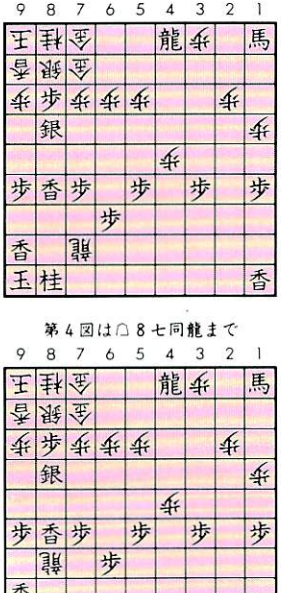
第1図は△7九龍まで



第2図は▲8七銀まで

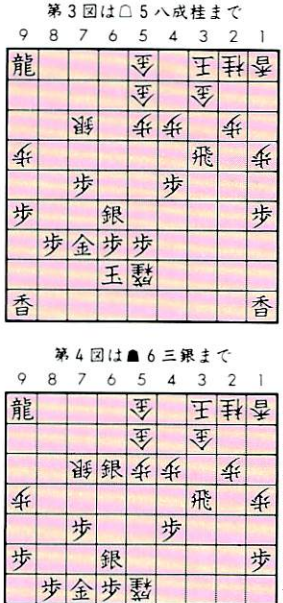


第3図は△7八同龍まで



第4図は△8七同龍まで

第3図は△5八成桂まで



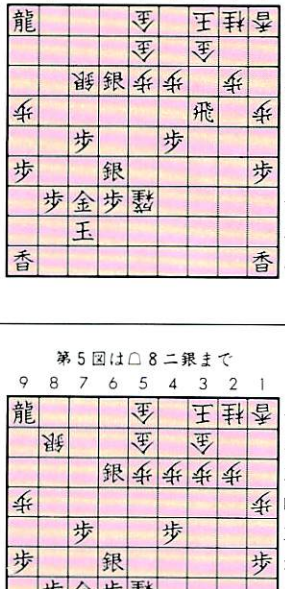
▲5二角成 △3四銀
▲同飛 △5二金
▲6一飛成 △5一金打
▲9一龍 △5八成桂

（3図）

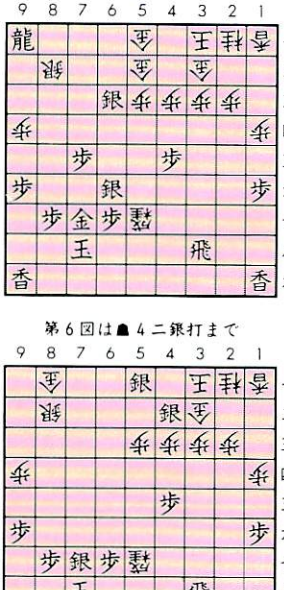
一番早い寄せとは▲2二角と打つ手で、これなら寄ってました。本譜は少し長引きました。さて△5八成桂の王手には。

▲7八王 △5七成桂
▲6三銀（4図）
▲5八同王と取ると△2五角の王手飛車。このようにタダで駒を捨ててくる場合は要注意です。4図、▲6三銀で寄せ形に入りました。

第4図は▲6三銀まで



第5図は△8二銀まで

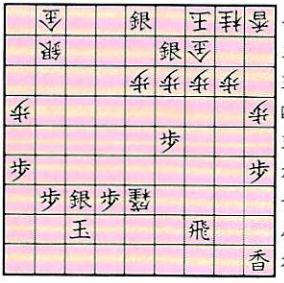


△3三歩
▲3八飛 △8二銀

（5図）

米長九段は△3三歩と頑張ります。私も無理をしないで▲3八飛と引き上げましたが、△8二銀がトキッとする手。取るべきか、取らざるべきか。

第6図は▲4二銀打まで



▲8一龍 △8五桂
▲5二銀不成 △7七桂成
▲同銀 △7一金
▲5一銀不成 △8一金
▲4二銀打（6図）まで谷川の勝ち。

6図以下、△4二同金なら▲3三飛成。△2二玉なら▲1三金以下詰みです。

第6局は〝終盤の魔術師〟のニックネームのある森九段との一戦。相穴熊の激闘の末、1図となりましたが、ひとつ受けを間違うといっぺんに奈落の底へ突き落とされてしまいます。皆さんも私になったつもりで考えて下さい。

第5図は□8二同金まで

■8二歩成　□同金上
■8三歩　□8六龍
■8二歩成　□同金（5図）

このように歩だけで金銀を取る気持ちのよい攻めが決っては、勝負あったの感があります。しかし森九段は□8六龍と香を取り、一発狙っています。慎重に。

第6図は■8三桂まで

■7五銀打　□8七香
■8六銀　□7八金
■8三桂（6図）まで谷川の勝ち。

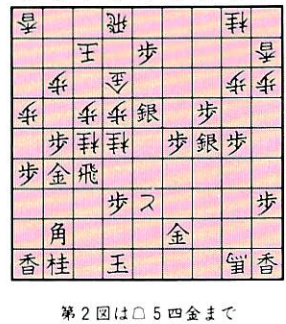
■8三桂と打って□同金に■7二金でも勝ちみたいですが、□8七桂でトン死。攻め駒（龍）を攻める■7五銀打が決め手でした。

■8七銀（2図）

まず浮かぶのは■8八銀ですが、それには後手の好手□7八金があります。（■7九銀には□8七桂）

■8七銀が盤上この一手の受けで、遠く1一の馬と連携できわどく後手の攻めを受け止めています。

第1図は□5七歩成まで



第7局は大山十五世名人との一戦。〝不沈艦〟とも〝二枚腰〟とも呼ばれる大山城をどう攻略しましょうか。1図は□5七歩成と、金を作って手駒が入れば詰ますぞと迫った局面。一見負けのようですが……。

■4四角　□5四金

□7八銀
■同銀　□同龍（3図）

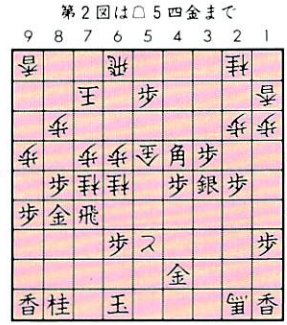
森九段は執拗に□7八銀と絡んできました。■同銀□同龍まで、龍の位置が変わったことに注目して次の一手を考えて下さい。

■8八金　□8七桂
■同金　□同龍

今度は■8八金と龍に当てる手が効きます。後手も龍を逃げていては全く話にならないので□8七桂以下攻めをつないできますが、4図は私の玉に即詰みがなくなっています。

さあ、いよいよこちらが攻める番です。

第2図は□5四金まで

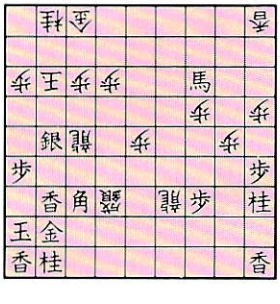


（2図）

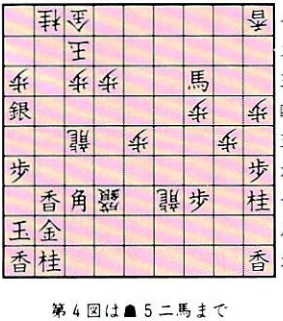
私は■4四角と出て、次に■6三銀成以下の即詰みを狙った。後手は当然□5四金と銀を払ってきたが、これは読み筋。自陣の飛車と金を協力させて攻略したい。さて、スピード感ある寄せは？

第1図は△6七銀成まで

第2図は△8三同玉まで



第3図は△7二玉まで



第4図は▲5二馬まで

第3図は▲7五金まで

▲7三歩 △同玉
▲7五金（3図）
▲7三歩が攻めに勢いをつける一手。△同玉に▲7五金と桂を取って3図。△同歩なら▲7四歩△同玉▲6六桂以下の即詰み。決まったかに思えるが。
△7七桂不成

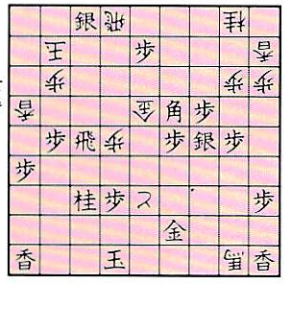
第4図は△7五歩まで

▲同桂 △7五歩
（4図）
大山十五世は△7七桂不成と捨て駒で、遠く2九の馬を7四の地点に効かせてきた。もちろん自玉は詰めろだし、馬を引きつけて粘られると厄介。粘らせない寄せ方を問う。

第5図は△8二玉まで

▲6五桂打 △同歩
▲7四歩 △6四玉
▲7三銀 △7四玉
▲8六桂 △7三玉
▲7五飛 △8二玉
（5図）
馬を引きつけさせない▲6五桂打が好手。以下王手の連続で5図まで。ここで

第6図は▲7一銀まで



後手王に即詰みがあるか、詰手順を発見できましたか？
▲9四桂 △同香
▲7一銀（6図）まで谷川の勝ち。
6図以下△9三王なら▲9二金△同王▲7二飛成△9三王▲8二龍まで。きわどい終盤だった。

第8局は〝自在流〟内藤九段との一戦。内藤九段の中飛車穴熊に私が玉頭位取りで対陣して激しい攻防の末、1図の局面となった。すでに終盤戦、私の指した次の一手はもっとも皆さんの好きな手ではなかろうか。

▲8三銀　△同金

▲同歩成　△同銀

▲同桂成　△同玉（2図）

8三の地点に8七の香も含めて、かなり殺到できる形である。ロコツに▲8三銀と打ち込めば、必然的に2図となる。

ここで次の一手を考えていただきたい。

2図から▲8四銀打と王手龍取りをかける手もあるが、△7三玉と逃げられてやや重い。単に▲8四銀も△同龍▲同香△同玉で大変。ひと目で見つけていただきたい一手は。

▲9四銀　△7二玉（3図）

これで8七の香がいっぺんに通ってきた。さらに左辺に玉を逃がさない手は。

▲5一馬　△6四歩

▲5二馬（4図）まで谷川の勝ち。

▲8三銀成などと追わないで挟撃するのが正しい寄せ方である。

第1図は△4五歩まで

A級順位戦最終局は〝地蔵流〟こと、関西の南王将（当時棋聖）との一戦。実はこの一局に負けて、全勝優勝を逃したのが残念だった。1図はその終盤戦、△4五歩と桂を取りながら銀に当てられた局面。

ここでは駒損なのですでに私の方が指しにくいが、楽しみは2四の地点にタラしてある歩。これを拠点に何か手を作りたいが。

▲6五金　△同歩

▲7五銀（2図）

2三に打ち込みを狙って桂を取り、角に当てて銀を引いたが…。

第2図は▲7五銀まで

第3図は▲7五同歩まで

△7五同角

▲同歩（3図）

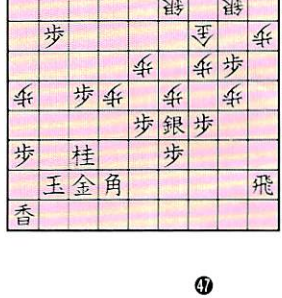
角を3三に逃げてくれれば▲4五銀でおもしろいが、そんなこちらの言い分を通してくれるような相手ではない。

角銀交換を平然とされ、次の一手が実に渋い南流の好手だった。

△3三金（4図）

△7六桂とか、△8六香など攻めたい手がたくさんあるのに、じっと自陣に手を戻す金寄り。これにはまいった。後手の穴熊が堅く見える。

第4図は△3三金まで



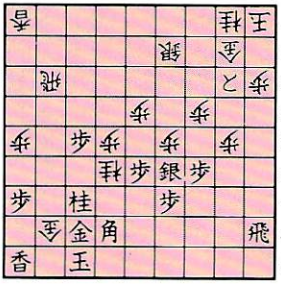
第5図は△6六桂まで

▲2三香 △8三飛
▲7九玉 △6六桂
（5図）

▲2三香と打ち込んだが、後手は△8三飛と待望の反撃。そして△6六桂まで、どうやら筋に入ったようだ。

▲2二香成 △同金
▲2三桂 △同金寄

第6図は△8八金まで



▲同歩成 △8八金（6図）まで南棋聖（当時）の勝ち。

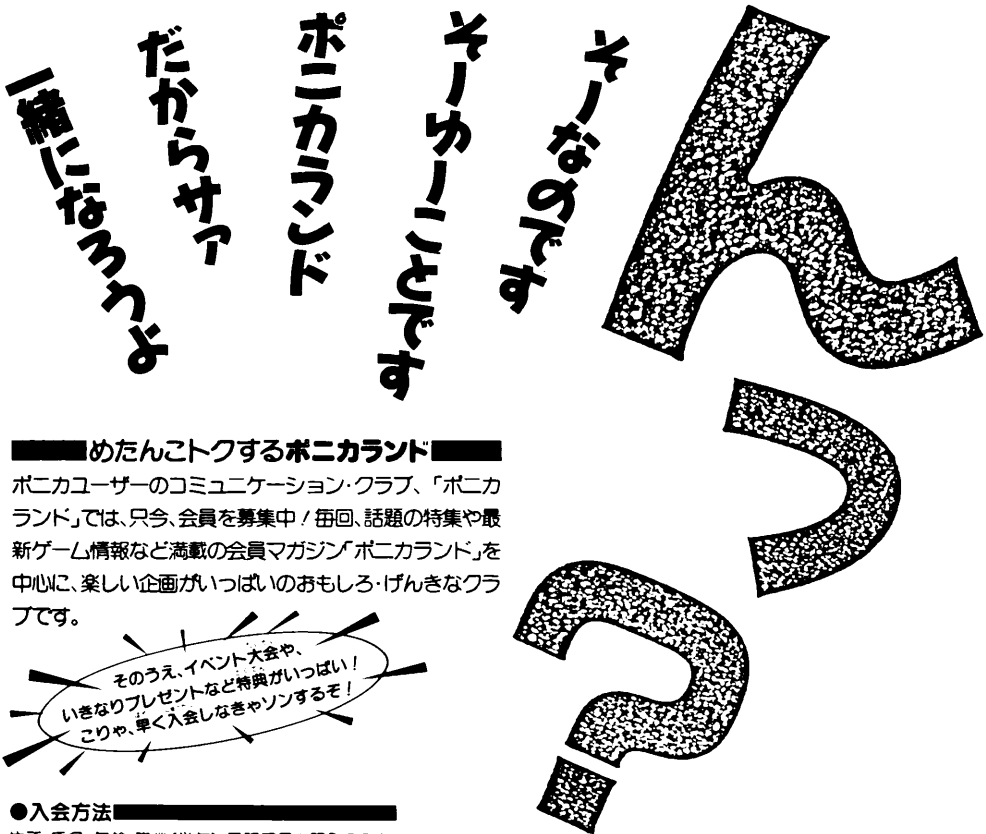
6図以下▲同金は△同飛成▲同玉△8六香で即詰み。

A級順位戦全九局、いかがでしたか。寄せの参考にしていただければ幸いです。上達を祈っております。

おもしろ・げんきな㊙クラブ

PONYCA LAND

只今、会員募集中！



めたんこトクするポニカランド

ポニカユーザーのコミュニケーション・クラブ、「ポニカランド」では、只今、会員を募集中！毎回、話題の特集や最新ゲーム情報など満載の会員マガジン「ポニカランド」を中心に、楽しい企画がいっぱいのおもしろ・げんきなクラブです。

そのうえ、イベント大会や、
いきなりプレゼントなど特典がいっぱい！
こりゃ、早く入会しなきゃソンするモ！

●入会方法

住所・氏名・年齢・職業（学年）・電話番号を記入のうえ、切手600円分（1年分のポニカランド購読料）をそえて下記の宛先までお送り下さい。隔月発行のポニカランドを1年分（計6回）郵送いたします。

●再入会のお知らせ

ポニカランド会員で1年間の購読期間が切れ、再入会ご希望の方は住所・氏名・年齢・電話番号・会員番号を明記の上、600円分の切手（1年分）を下記の宛先までお送り下さい。ひき続きポニカランドを1年間郵送いたします。

●宛先

〒102 東京都千代田区九段北4-3-31
㈱ポニーキャニオン PONYCA事業部
●ポニカランド係　●再入会の係

PONY CANYON INC.

L78 F 5125

F78 F 5125